

(様式第10)

和医大経第429号  
令和7年10月2日  
公立大学法人和歌山県立医科大学  
理事長 中尾 直之

厚生労働大臣 殿

開設者名

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1
氏名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

和歌山県立医科大学附属病院
---------------

3 所在の場所

〒641-8510 和歌山市紀三井寺811番地1
電話 (073) 447 - 2300

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科						無
内科と組み合わせた診療科名等						
	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科	4腎臓内科
	5神経内科	<input checked="" type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科
診療実績						
「呼吸器内科」の診療内容は呼吸器内科・腫瘍内科にて、「腎臓内科」の診療内容は腎臓内科(人工透析)にて、「神経内科」の診療内容は脳神経内科にて、「内分泌内科」「代謝内科」の診療内容は糖尿病・内分泌・代謝内科にて、感染症内科については呼吸器内科・腫瘍内科、アレルギー疾患については呼吸器内科・腫瘍内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科等にて、「リウマチ科」の診療内容はリウマチ・膠原病内科にて提供している。						

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2)外科

外科				無			
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
「呼吸器外科」「乳腺外科」の診療内容は呼吸器外科・乳腺外科にて、「消化器外科」「内分泌外科」「小児外科」の診療内容は消化器・内分泌・小児外科にて提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3)その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4)歯科

歯科				無			
歯科と組み合わせた診療科名							
1小児歯科		2矯正歯科		○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	糖尿病・内分泌・代謝内科	2	呼吸器内科・腫瘍内科	3	脳神経内科	4	リウマチ・膠原病内科	5	神経精神科
6	形成外科	7	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	腎臓内科(人工透析)
11	呼吸器外科・乳腺外科	12	消化器・内分泌・小児外科	13	産科・婦人科	14	歯科口腔外科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40				760	800

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	440	127	451.4
歯科医師	10	9	10.2
薬剤師	57	1	57.7
保健師	5	0	5
助産師	44	7	49.2
看護師	686	77	743.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	8	3	10.9

職種	員数
看護補助者	34
理学療法士	38
作業療法士	10
視能訓練士	5
義肢装具士	0
臨床工学士	33
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	45

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	63
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	12	
その他の技術員	42	
事務職員	213	
その他の職員	16	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	40	眼科専門医	10
外科専門医	32	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	8	放射線科専門医	17
小児科専門医	17	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	16
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	14	救急科専門医	14
		合計	218

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 西村 好晴 ) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

- ・日本医療安全学会 高度医療安全推進者(2022.10月～2025.10月)
- ・医療事故調査・支援センター 個別調査部会員(R4.9月)、個別調査部会長(R5.4)、医療事故調査委員会内部委員(R5.7)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	606.3 人	5.1 人	611.4 人
1日当たり平均外来患者数	953.3 人	61 人	1014.3 人
1日当たり平均調剤数	889.5		剤
必要医師数	124		人
必要歯科医師数	5		人
必要薬剤師数	21		人
必要(准)看護師数	341		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	417 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	10 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	196.5	m <sup>2</sup>	病床数	14 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	71		m <sup>2</sup>	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	903 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備)	臨床化学測定装置、免疫測定装置、糖分析装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等		
細菌検査室	90 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備)	細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、質量分析装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンバー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等		
病理検査室	191 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備)	自動薄切装置・細胞診標本LBC作成装置		
病理解剖室	363 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備)	解剖台・写真撮影装置		
研究室	15846 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	(主な設備)	デジタル顕微鏡システム、蛍光顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター等		
講義室	616 m <sup>2</sup>	鉄骨耐火構造	室数	2 室	収容定員	260 人
図書室	1741 m <sup>2</sup>	鉄鋼鉄筋耐火構造	室数	9 室	蔵書数	110,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.7	%	逆紹介率	82.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			15,889 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			18,194 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			3,357 人	
	D: 初診の患者の数			21,941 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
新田 雅彦	大阪医科薬科大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	無	1
浦野 敏	NPO法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページに掲載	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病(派生含まず)	21
2	筋萎縮性側索硬化症	23	57	特発性拡張型心筋症	19
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症(派生含まず)	21
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	6	60	再生不良性貧血(派生含む)	25
6	パーキンソン病	241	61	自己免疫性溶血性貧血	6
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	66
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病(派生含まず)	9
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症(派生含まず)	64	66	IgA腎症	97
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	0
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎(派生含まず)	71	68	黄色靭帯骨化症	1
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	22	69	後縦靭帯骨化症	14
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	0
17	多系統萎縮症	8	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)(派生含まず)	29	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	10
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	9	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	6
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	6	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	0	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	42
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	5
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症(派生含まず)	12
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症(派生含まず)	20	89	リンパ管筋腫症	2
35	天疱瘡(派生含む)	22	90	網膜色素変性症(両含む)	6
36	表皮水疱症(派生含む)	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)(躯幹以外の派生含まず)	3	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	38
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	6	95	自己免疫性肝炎	44
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病(派生含まず)	91
42	結節性多発動脈炎	5	97	潰瘍性大腸炎(派生含まず)	177
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	7	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	223	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	60	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	47	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	30	107	若年性特発性関節炎(派生含まず)	2
53	シェーグレン症候群(両含む)	96	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	12	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	7	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
113	筋ジストロフィー(派生含まず)	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	17	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	11	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	2	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	2
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性	0	175	ウィーバー症候群	0
126	白質脳症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	ペリー症候群	0	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	前頭側頭葉変性症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	180	ATR-X症候群	0
131	先天性無痛無汗症	0	181	クルーゾン症候群	0
132	アレキサンダー病	0	182	アペール症候群	0
133	先天性核上性球麻痺	0	183	ファイファー症候群	0
134	メビウス症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	アイカルティ症候群	1	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	片側巨脳症	1	187	歌舞伎症候群	1
138	限局性皮質異形成	0	188	多脾症候群	5
139	神経細胞移動異常症	0	189	無脾症候群	3
140	先天性大脳白質形成不全症	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	ドラベ症候群	1	191	ウェルナー症候群	0
142	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー欠神てんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	7
144	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	194	ソトス症候群	1
145	レノックス・ガストー症候群	0	195	ヌーナン症候群	3
146	ウエスト症候群	1	196	ヤング・シンプソン症候群	1
147	大田原症候群	0	197	1p36欠失症候群	1
148	早期ミオクロニー脳症	0	198	4p欠失症候群	0
149	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	199	5p欠失症候群	0
150	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	環状20番染色体症候群	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	ラスマツセン脳炎	0	202	スミス・マギニス症候群	1
153	PCDH19関連症候群	0	203	22q11.2欠失症候群	4
154	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	204	エマヌエル症候群	0
155	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	ランドウ・クレフナー症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	レット症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	スタージ・ウェーバー症候群	2	208	修正大血管転位症	10
159	結節性硬化症	13	209	完全大血管転位症(派生含む)	18
160	色素性乾皮症	0	210	単心室症(派生含む)	15
160	先天性魚鱗癬	0			

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	6	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症(伴うかどうかは不明)	26	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	68	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	27	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	7	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	10	268	中條・西村症候群	1
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群(右記件数全てが一次性かどうかは不明)	91	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎(右記件数全てが一次性かどうかは不明)	6	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿管症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)(ハンナ型かどうかは不明)	1	274	骨形成不全症	4
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	2	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)(自己免疫性又は先天性かどうかは不明)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症(派生含まず)	5	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)(型名不明)	6
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	2	294	先天性横隔膜ヘルニア	1
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症(派生含む)	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	3
308	進行性白質脳症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
310	先天異常症候群	0	334	脳クリアチン欠乏症候群	0
311	先天性三尖弁狭窄症	2	335	ネフロン癆	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	337	ホモシスチン尿症	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	339	MECP2重複症候群	0
316	カルニチン回路異常症	0	340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
317	三頭酵素欠損症	0	341	TRPV4異常症	0
318	シトリン欠損症	1	342	LMNB1 関連大脳白質脳症	
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	343	PURA関連神経発達異常症	
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症	
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	345	乳児発症 STING 関連血管炎	
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0	346	原発性肝外門脈閉塞症	
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0	347	出血性線溶異常症	
324	メチルグルタコン酸尿症	0	348	口ウ症候群	
325	遺伝性自己炎症疾患	0			
326	大理石骨病	0			
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0			
328	前眼部形成異常	0			
329	無虹彩症	0			
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

取扱疾患件数	145
患者数計	2,295

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算1
・医療DX推進体制整備加算5	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1 入院基本料)	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算(加算2のイ)
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算(加算1、加算3、地域連携診療計画加算、入院時支援加算)
・診療録管理体制加算3	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)注2ハ夜間100対1急性期看護補助体制加算、注3夜間看護体制加算、注4ロ看護補助体制充実加算	・精神科急性期医師配置加算(1)
・看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算(一般)	・救命救急入院料1(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・療養環境加算(精神)	・救命救急入院料2(注3 救急体制充実加算1、注4に掲げる加算、小児加算)
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料2(小児加算)
・無菌治療室管理加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料、新生児集中治療室管理料)
・緩和ケア診療加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科応急入院施設管理加算	・小児入院医療管理料2(注2プレイルーム加算)(注7養育支援体制加算)
・精神科身体合併症管理加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1(注2 指導強化加算、注5 抗菌薬適正使用体制加算)	
・患者サポート体制充実加算	
・重症患者初期支援充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・がん治療連携計画策定料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・糖尿病合併症管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料イ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ニ	・医療機器安全管理料(歯科)
・外来緩和ケア管理料	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・救急患者連携搬送料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2(緩和ケア)
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算(緩和ケア)
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・下肢創傷処置管理料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・院内トリアージ実施料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来放射線照射診療料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・連携充実加算	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・ニコチン依存症管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・リンパ浮腫複合的治療料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・集団コミュニケーション療法料
・胎児心エコー法	・歯科口腔リハビリテーション料2
・ヘッドアップティルト試験	・経頭蓋磁気刺激療法
・人工臓器検査、人工臓器療法	・通院・在宅精神療法の注11に規定する早期診療体制充実加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・認知療法・認知行動療法1
・単線維筋電図	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・神経学的検査	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・補聴器適合検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・経気管支凍結生検法	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・精密触覚機能検査	・硬膜外自家血注入
・画像診断管理加算1	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・画像診断管理加算2	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・外傷全身CT加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・心臓MRI撮影加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・乳房MRI撮影加算	・ストーマ合併症加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
・外来化学療法加算1	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・無菌製剤処理料	・歯科技工加算1及び2

施設基準の種類	施設基準の種類
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・自家脂肪注入	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)(1次再建、2次再建)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳がんセンチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・椎間板内酵素注入療法	・乳がんセンチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・網膜再建術	・内視鏡下筋層切開術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・人工中耳植込術	・胸腔鏡下弁形成術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)

施設基準の種類	施設基準の種類
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)小児を除く	・腹腔鏡下腎盂形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢動脈形成術	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・生体腎移植術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・精巣温存手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・体外衝撃波胆石破砕術	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・腹腔鏡下肝切除術	・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術に限る)
・体外衝撃波膵石破砕術	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・輸血管理料 I
・腹腔鏡下膵中央切除術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・レーザー機器加算

施設基準の種類	施設基準の種類
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・歯周組織再生誘導手術	・画像誘導密封小線源治療加算
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・歯根端切除手術の注3	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・口腔粘膜血管腫凝固術	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・麻酔管理料(Ⅰ)	・病理診断管理加算2
・麻酔管理料(Ⅱ)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・放射線治療専任加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・外来放射線治療加算	・歯科矯正診断料
・高エネルギー放射線治療	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・一回線量増加加算	・看護職員処遇改善評価料58
・強度変調放射線治療(IMRT)	・外来・在宅ヘースアップ評価料(Ⅰ)
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
・体外照射呼吸性移動対策加算	・入院ベースアップ評価料80
・定位放射線治療	



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規痛み関連分子Tmem45bに注目した病的疼痛の機序の解明と新たな治療法の開発	川股知之	麻酔科学講座	2,400,000	補 日本学術振興会
GPCRシグナルからみた統合失調症と気分障害の作業記憶と感情制御障害の神経基盤の解明	紀本創兵	神経精神医学講座	4,400,000	補 日本学術振興会
マイクロニードルを利用した心臓血管用止血シートの開発	本田賢太郎	外科学第一講座	200,000	補 日本学術振興会
変性椎間板マウスモデルにおける脊索細胞注入の髄核修復効果	村上公英	救急・集中治療医学講座	200,000	補 日本学術振興会
ヘッジホッグ/ネトリンによる上皮-神経相互作用の解明と神経麻痺性角膜症の治療戦略	雑賀司珠也	眼科学講座	800,000	補 日本学術振興会
リンパ浮腫発症における補体の役割とその分子機構	朝村真一	形成外科学講座	800,000	補 日本学術振興会
脊柱靭帯骨化疾患～ゲノム解析による疾患概念の確立～	長田圭司	整形外科科学講座	200,000	補 日本学術振興会
後天性嚢胞腎を背景として発生する腎細胞癌の前駆病変の解明	小島史好	人体病理学講座	500,000	補 日本学術振興会
マルチオミクス解析による免疫チェックポイント阻害剤低感受性肺癌の効果予測因子同定	赤松弘朗	内科学第三講座	400,000	補 日本学術振興会
神経疾患における補体関与バイオマーカー探索	宮本勝一	脳神経内科学講座	900,000	補 日本学術振興会
新しい液体塞栓物質を用いたglueinplug法の有用性に関する検討	生駒顕	放射線医学講座	100,000	補 日本学術振興会
酵母由来ザイモサンによる乳幼児に適した経鼻型ノロウイルスワクチンの開発	徳原大介	小児科学講座	100,000	補 日本学術振興会
過飽和酸素血の冠動脈内投与によるnoreflow現象抑制効果の検討	猪野靖	内科学第四講座	100,000	補 日本学術振興会
ケロイド特異的融合遺伝子の同定および機能解析	村岡響子	皮膚科学講座	1,200,000	補 日本学術振興会
神経精神ループス患者における脳脊髄液中の自己抗体・液性因子が脳活動に及ぼす影響	藤井隆夫	リウマチ・膠原病科学講座	900,000	補 日本学術振興会
神経精神ループスにおける生理活性物質不均衡、B細胞分化異常を介した病態機構の解明	岩田慈	リウマチ・膠原病科学講座	1,200,000	補 日本学術振興会
ウイルス感染に伴う侵襲性肺炎球菌感染症におけるTRPV4チャネルの関与と治療応用	保富宗城	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	500,000	補 日本学術振興会
シンバイオテックスによる膀胱癌微小環境変化をもたらす新規複合的免疫療法の開発	川井学	外科学第二講座	400,000	補 日本学術振興会

改変型XCL1産生腫瘍ワクチンを用いた革新的新規複合免疫療法の開発研究	勝田将裕	外科学第二講座	1,000,000	補	日本学術振興会
オルガノイドを用いたメチル基転移酵素による肝内胆管癌リンパ節転移の機序解明	速水晋也	外科学第二講座	1,200,000	補	日本学術振興会
急性大動脈解離の解離腔補強のためのマイクロニードルを有する人工中膜の開発	西村好晴	外科学第一講座	200,000	補	日本学術振興会
臨床応用を目指した痛みの遺伝子治療の基盤的研究開発	神田浩嗣	麻酔科学講座	800,000	補	日本学術振興会
新規分子を標的とした化学療法誘発性神経障害における痛み機序の解明と	平井亜葵	中央手術部 (麻酔科学講座)	600,000	補	日本学術振興会
止血TAE手技に対する血管収縮薬の塞栓阻害作用に着眼した外傷死亡要因の新規解明	米満尚史	救急・集中治療医学講座	100,000	補	日本学術振興会
内皮グリコカリックス障害を起こす機序の解明およびあらたな輸液戦略の開発	山崎景子	麻酔科学講座	800,000	補	日本学術振興会
蘇生後脳症における早期脳障害バイオマーカーの網羅的探索	川嶋秀治	救急・集中治療医学講座	600,000	補	日本学術振興会
胎盤形成におけるミトコンドリア-小胞体相互作用メカニズムの解明	岩橋尚幸	産科・婦人科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
扁桃病巣疾患におけるパラインフルエンザ菌特異的単一リンパ球の同定と病態関与の検証	金子富美恵	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	600,000	補	日本学術振興会
反復性中耳炎における肺炎球菌ワクチン不応答集団の同定と腸内細菌叢の役割解明	武田早織	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	500,000	補	日本学術振興会
骨吸収因子に着目したエナメル上皮腫治療の新戦略	松村達志	歯科口腔外科学講座	900,000	補	日本学術振興会
無莢膜型肺炎球菌の病原性解明と全菌体型肺炎球菌ワクチンによる予防効果の検証	酒谷英樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	600,000	補	日本学術振興会
脳領域間の因果関係を考慮に入れたネットワーク解析によるうつ病のrTMS治療機序の解明	石田卓也	神経精神医学講座	500,000	補	日本学術振興会
メタボ・フレイルによる慢性炎症と脳画像によるMCIの認知症への移行指標の確立	山田信一	神経精神医学講座	400,000	補	日本学術振興会
小児IgA腎症、紫斑病性腎炎における糖鎖異常IgA1及びその特異的IgGの関与	島友子	小児科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
慢性炎症に着目したがんサバイバー特有の心血管疾患発症機序の解明	樽谷玲	内科学第四講座	900,000	補	日本学術振興会
予測統計に基づく心不全患者におけるオンライン診療及び遠隔診療の安全性への検証	山野貴司	内科学第四講座	300,000	補	日本学術振興会
COPD患者の脊柱筋に関する実践的研究	中西正典	内科学第三講座	300,000	補	日本学術振興会
自己炎症性疾患・中條-西村症候群におけるmicroRNAの役割の解明	国本佳代	皮膚科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会

全身性エリテマトーデスにおけるB細胞-補体連関の機序解明と病態制御への展開	松宮遼	リウマチ・膠原病科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
隣β細胞糖毒性の要因となる転写因子の同定	松岡孝昭	内科学第一講座	1,100,000	補	日本学術振興会
内皮グリコカリックス障害に対する麻酔薬による回復効果の機序の検討	時永泰行	麻酔科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
辺縁系脳領域に着目した痛覚変調性疼痛に特異的な神経基盤の解明	黒崎弘倫	麻酔科学講座	600,000	補	日本学術振興会
ヒストン変異を有するグリオーマの臨床・病理学的解析	深井順也	脳神経外科学講座	700,000	補	日本学術振興会
前帯状皮質、島皮質におけるケタミンの疼痛抑制メカニズムの解明	山中学	整形外科科学講座	700,000	補	日本学術振興会
地域住民コホート縦断研究による脊柱後弯症の長期自然経過の解明	高見正成	整形外科科学講座	1,600,000	補	日本学術振興会
尿路結石形成における間質線維芽細胞の役割の解明	山下真平	泌尿器科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
免疫寛容誘導分子を標的とした卵巣癌におけるAAV-CRISPR/Cas9療法の確立	八幡環	産科・婦人科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
細胞内脂肪滴蓄積を標的とした子宮頸癌の新たな予後予測と治療戦略	西岡香穂	産科・婦人科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
リキッドバイオプシーによる卵巣癌の時間的空間的不均一性の克服とMRD検出の治療戦略	井篁一彦	産科・婦人科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
嗅上皮再生における一過性受容体電位TRPチャネル/SonicHedgehogの役割の解明	河野正充	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
テネイシンXによる成長因子活性化を標的とした炎症性角膜炎患の新規治療戦略の確立	住岡孝吉	眼科学講座	900,000	補	日本学術振興会
Down症候群の移行期医療の課題解明および情報共有ツールの開発	杉本卓也	小児科学講座	700,000	補	日本学術振興会
ExosomeDNAを活用した癌微小環境を制御する膵癌治療戦略の開発	北畑裕司	外科学第二講座	1,400,000	補	日本学術振興会
豚での新しい液体塞栓物質を用いたバルーン併用下動脈塞栓術の有用性と安全性の検討	園村哲郎	放射線医学講座	3,200,000	補	日本学術振興会
NBCA-Lipiodol-Iopamidol混和液(NLI)の新しい作成方法の検討	東野信行	放射線医学講座	1,500,000	補	日本学術振興会
網羅的micro-RNA解析による川崎病性冠動脈瘤リモデリング機序の解明と治療応用	垣本信幸	小児科学講座	2,100,000	補	日本学術振興会
フラクタルカイン受容体に着目した心房リモデリング進展機序の解明	柏木学	内科学第四講座	1,300,000	補	日本学術振興会
PIWI/piRNA経路の悪性黒色腫における役割の検討	山本有紀	皮膚科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会

内在性siRNAの強皮症・皮膚線維化疾患への関与についての研究	神人正寿	皮膚科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
樹状細胞サブセットに注目した新規抗がんワクチンの胆道癌集学的治療への応用	宮本篤	外科学第二講座	1,000,000	補	日本学術振興会
大腸癌肝転移に対するエクソソーム解析を用いた臓器特異的診断バイオマーカーの開発	松田健司	外科学第二講座	1,100,000	補	日本学術振興会
微生物由来細胞外小胞と腫瘍免疫微小環境の関連性に関する探索的研究	上野昌樹	外科学第二講座	1,300,000	補	日本学術振興会
大腸がんに対する免疫チェックポイント阻害剤併用個別化iPSDCsがんワクチン療法の開発	岩本博光	外科学第二講座	1,300,000	補	日本学術振興会
Vasavatorumに着目したVeinGraftdiseaseの発症機序解明	中村諒	外科学第一講座	1,400,000	補	日本学術振興会
がん性痛およびがんの増殖を制御する末梢神経の解明	吉田朱里	麻酔科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
高齢敗血症患者における筋萎縮の病態解明とマイオカインを活用したPICS治療法の探索	井上茂亮	救急・集中治療医学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
高乳酸環境を標的とした新規腫瘍免疫療法の開発	原勲	泌尿器科学講座	1,300,000	補	日本学術振興会
頭頸部癌におけるTRPチャンネルと腫瘍内細菌叢による癌微小環境制御機序の解明	玉川俊次	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
ムチン減少ドライアイとマイボーム腺機能不全の合併による角膜障害の新規治療戦略	白井久美	眼科学講座	900,000	補	日本学術振興会
増殖硝子体網膜症の上皮間葉系移行におけるThymosin $\beta$ 4の役割	吉田太理	眼科学講座	1,500,000	補	日本学術振興会
本邦で急速に拡大しつつあるVREに対する「治療＋予防」包括的感染制御体制の確立	小泉祐介	臨床感染制御学講座	2,000,000	補	日本学術振興会
心臓突然死における冠動脈狭窄の無い急性心筋梗塞の法医学的診断法の構築	田中篤	内科学第四講座	1,100,000	補	日本学術振興会
社会経験の剥奪による前頭前野の機能障害の起点となる神経細胞の解明	岡村和哉	神経精神医学講座	700,000	補	日本学術振興会
悪性髄膜腫におけるエピジェネティック異常をターゲットとする新規治療法の確立	佐々木貴浩	脳神経外科学講座	400,000	補	日本学術振興会
高血糖に着目した急性心筋梗塞における再灌流後心筋内出血の機序解明	太田慎吾	内科学第四講座	300,000	補	日本学術振興会
冠動脈スティフネスパラメータ $\beta$ の測定方法の確立および心血管イベントの予測	高畑昌弘	内科学第四講座	100,000	補	日本学術振興会
胎盤一心筋連関に着目した周産期心筋症発症機序の解明	藤田澄吾子	内科学第四講座	100,000	補	日本学術振興会
オルガノイドを用いたネオアンチゲンパルスiPS細胞由来樹状細胞療法の基礎的研究	北谷純也	外科学第二講座	900,000	補	日本学術振興会

癌関連線維芽細胞の細胞老化を標的とするがん微小環境制御と胃癌腹膜播種治療への応用	竹内昭博	外科学第二講座	600,000	補	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸受容体3を標的とした新しい角膜感覚神経の再生治療戦略の樹立	安田慎吾	眼科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
超音波内視鏡による新たな慢性膵炎診断・進行度評価と線維化が及ぼす機能異常の解明	山下泰伸	内科学第二講座	600,000	補	日本学術振興会
尿毒症状態における免疫障害に対するMg負荷の効果に関する研究	田中佑典	腎臓内科学講座	800,000	補	日本学術振興会
侵襲性肺炎球菌感染におけるスフィンゴシン1リン酸受容体の役割の解明	村上大地	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
変異コルチコステロイド結合グロブリン蛋白の機能解析と副腎皮質機能低下症への影響	中尾友美	内科学第一講座	700,000	補	日本学術振興会
脈管系の可視化とソノポレーション法の併用による革新的なリンパ浮腫治療法の開発	久米川真治	形成外科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
豚におけるゼラチンスポンジを用いた肥満に対する血管塞栓術の検討	佐藤大樹	中央放射線部 (放射線医学講座)	1,600,000	補	日本学術振興会
川崎病および川崎病冠動脈瘤発症における自然免疫様リンパ球の役割の解明	鈴木崇之	小児科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
経カテーテル大動脈弁留置術後の冠血流予備能改善機序の解明	和田輝明	内科学第四講座	1,900,000	補	日本学術振興会
膵β細胞におけるヒストンタンパク質Hist1h1cの役割の解明	下直樹	内科学第一講座	700,000	補	日本学術振興会
敗血症患者における脳萎縮・微小出血と集中治療後症候群との関連の探索	島望	救急・集中治療医学講座	600,000	補	日本学術振興会
腹膜炎手術における腹腔内洗浄法の違いが術後手術部位感染に及ぼす影響の実験的検証	置塩裕子	救急・集中治療医学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
大規模一般住民コホートによる手の疼痛と中枢性感作に関する疫学調査-ROADstudy-	下江隆司	整形外科科学講座	600,000	補	日本学術振興会
POCT機器導入による僻地循環器病遠隔診療の治療成績向上	里神慶亮	内科学第四講座	2,200,000	補	日本学術振興会
自己炎症性疾患モデルマウスにおける免疫異常の分子基盤の解明	加藤喬	リウマチ・膠原病内科学講座	1,100,000	補	日本学術振興会
膵癌オルガノイドを用いたヒストン脱メチル化を介する癌増殖・浸潤メカニズムの解明	黒岩英倫	外科学第二講座	900,000	補	日本学術振興会
inflammatoryCAF網羅的遺伝子解析による膵癌抗癌剤抵抗性分子メカニズムの解明	松本恭平	外科学第二講座	1,100,000	補	日本学術振興会
偏光感受性OCTを用いた選択的PPARαモジュレーターによるプラーク安定化の解明	尾崎雄一	内科学第四講座	500,000	補	日本学術振興会
神経特異性ベクターシステムを利用した痛みの遺伝子治療の実用化基盤の構築	神田恵	麻酔科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会

酸化ストレスによる老化とTRPチャネルを介した脊髄中枢性感作に関する解析	谷口亘	整形外科科学講座	1,400,000	補	日本学術振興会
腰椎部発育性脊柱管狭窄の概念確立を目指す地域住民コホート研究	岩橋弘樹	整形外科科学講座	1,000,000	補	日本学術振興会
日本人のPistolGripDeformity有所見率と関連因子～縦断研究	谷口隆哉	整形外科科学講座	1,200,000	補	日本学術振興会
共同研究グループ間の情報共有によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究	山本信之	内科学第三講座	1,000,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
未来を拓くため、子どもロコモの戦略的予防法の開発	寺口真年	整形外科科学講座	2,000,000	補	公益財団法人日本生命財団
術前化学療法/術前化学放射線療法を行った切除可能膵癌切除可能境界型膵癌の術前胆管ドレナージ術における金属ステントとプラスチックステントの有効性と安全性を比較する多施設共同後方視的コホート研究	田村崇	内科学第二講座	300,000	補	関西EDS研究会
嗅上皮に分布するTRPV1チャネルが経鼻腔感染防御に及ぼす役割の解明	酒谷英樹	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補	杜の都医学振興財団
卵巣癌のp53凝集体機能解析を目指した多角的な研究	岩橋尚幸	産科・婦人科学講座	1,500,000	補	公益財団法人今井精一記念財団
肺炎球菌の非血行性中枢神経感染経路と三叉神経TRPV1を介した感染制御機序の解明	河野正充	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,000,000	補	公益財団法人シオノギ感染症研究振興財団
膵臓癌患者における脂肪膵の頻度に関する後ろ向き全国調査	蘆田玲子	内科学第二講座	300,000	補	一般社団法人日本膵臓学会
免疫チェックポイント阻害薬関連1型糖尿病に対するヒトIAPPの影響	森田修平	内科学第一講座	3,000,000	補	公益財団法人日本糖尿病財団
脈管異常の皮膚病変に対するシロリムスゲルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験	神人正寿	皮膚科学講座	#####	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規痛み関連分子Tmem45bに注目した画期的な慢性疼痛治療薬開発に向けた研究	川股知之	麻酔科学講座	7,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Chiaki Kurimoto, Yasushi Furukawa, Takashi Akamizu, et al	内科学第一講座	Generation of a mouse model of thyroid storm and preliminary investigation of the therapeutic effects of ghrelin	BMC Endocr Disord 2024 Aug 12 24(1):150	Original Articles
2	Tatsuya Ishibashi, Nobuyuki Nishi, Masanori Kita, et al	内科学第一講座	Impact of angiotensin receptor neprilysin inhibitor on serum C-peptide levels in patients with type 2 diabetes	Diabetol Int 2024 Oct 18 16(1):194-198	Original Articles
3	Masahiro Itonaga, Reiko Ashida, Masayuki Kitano, et al	内科学第二講座	Updated techniques and evidence for endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition from solid pancreatic lesions	DEN Open 2024 Jun 20 5(1):e399	Review
4	Masahiro Itonaga, Masayuki Kitano	内科学第二講座	Endoscopic biliary drainage for distal bile duct obstruction due to pancreatic cancer	Clin Endosc 2025 Jan 58(1):40-52	Review
5	Masahiro Itonaga, Reiko Ashida, Keiichi Hatamaru, et al	内科学第二講座	Endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy vs. antegrade metal stent placement keeping an access route in patients with malignant biliary	Int J Clin Oncol 2024 Oct 29(10):1500-1508	Original Articles
6	Hirofumi Yamazaki, Yasunobu Yamashita, Takaaki Tamura, et al	内科学第二講座	Value of image enhancement of endoscopic ultrasound for diagnosis of gastrointestinal subepithelial lesions	DEN Open 2024 Oct 12 5(1):e70026	Original Articles
7	Masahiro Itonaga, Reiko Ashida, Tomoya Emori, et al	内科学第二講座	Safety of skipping the tract dilation step for EUS-guided biliary drainage in patients with unresectable malignant biliary obstruction (with video)	Surg Endosc 2024 Apr 38(4):2288-2296	Original Articles
8	Jun Kinoshita, Mikitaka Iguchi, Takao Maekita, et al	内科学第二講座	Efficacy of the traction method for gastric endoscopic submucosal dissection: a randomized controlled trial (with videos)	Gastrointest Endosc 2024 Aug 100(2):307-311.e2	Original Articles

9	Akiya Nakahata, Yasunobu Yamashita, Masayuki Kitano, et al	内科学第二講座	Endoscopic Ultrasound and Intraductal Ultrasound in the Diagnosis of Biliary Tract Diseases: A Narrative Review	Diagnostics (Basel) 2024 Sep 20 14(18):2086	Review
10	Yasunobu Yamashita, Hirofumi Yamazaki, Akiya Nakahata, et al	内科学第二講座	Endoscopic ultrasonography for microvascular imaging without contrast enhancement in the differential diagnosis of pancreatic lesions	Dig Endosc 2025 Feb 37(2):192–198	Original Articles
11	Yasunobu Yamashita, Reiko Ashida, Chimyon Gon, et al	内科学第二講座	Performance evaluation of endoscopic ultrasonography needles: Experimental study	Endosc Int Open 2024 Sep 9 12(9):E1015–E1022	Original Articles
12	Yasunobu Yamashita, Hirofumi Yamazaki, Akiya Nakahata, et al	内科学第二講座	Advances in Endoscopic Ultrasonography–Based Diagnosis of Pancreatic Lesions: Narrative Review	Cancers (Basel) 2025 Jan 7 17(2):172	Review
13	Takashi Tamura, Reiko Ashida, Tomoya Emori, et al	内科学第二講座	Serum trypsin as an early predictor of post–endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2024 Dec 31(12):917–925	Original Articles
14	Shinya Taki, Yoshiyuki Ida, Hideyuki Tamai, et al	内科学第二講座	Lusutrombopag Reduces the Risk of Hemoperitoneum Caused by Percutaneous Radiofrequency Ablation for Hepatocellular Carcinoma Compared with	Dig Dis 2024 Apr 42(5):445–451	Original Articles
15	Noriyuki Onishi, Masahiro Itonaga, Masayuki Kitano	内科学第二講座	Utility of endoscopic ultrasound–guided hepatic abscess drainage with contrast–enhanced harmonic imaging	Endoscopy 2024 Dec 56(S 01):E815–E816	Case Report
16	Yasunobu Yamashita, Reiko Ashida, Toshio Shimokawa, et al	内科学第二講座	Comparison of different puncture needles used for endoscopic ultrasound–guided fine–needle biopsy of Gastrointestinal subepithelial lesions ( $\leq 2$ cm) with respect to the adequacy of specimen collection: study protocol for a multicenter randomized prospective trial	Trials 2024 Dec 28 25(1):852	Original Articles

17	Akiya Nakahata, Yasunobu Yamashita, Hirofumi Yamazaki, et al	内科学第二講座	Intraductal Papillary Neoplasm of the Bile Duct Treated with Argon Plasma Coagulation via Endoscopic Ultrasound-guided Choledochoduodenostomy	Intern Med 2024 Apr 1 63(7):957-962	Case Report
18	Misato Tane, Hideki Kosako, Hiroki Hosoi, et al	血液内科学講座	Aortitis after switching short-acting granulocyte colony-stimulating factors in a lymphoma patient with HLA-B52	Int J Hematol 2024 May 119(5):608-612	Case Report
19	Shotaro Tabata, Yusuke Yamashita, Yoko Inai, et al	血液内科学講座	C-Mannosyl tryptophan is a novel biomarker for thrombocytosis of myeloproliferative neoplasms	Sci Rep, 2024 Aug 14, 14(1):18858	Original Articles
20	Hiroki Hosoi, Misato Tane, Tadashi Okamura, et al	血液内科学講座	Reduction in Length of Hospital Stays for Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation in the Letermovir Era	Transpl Infect Dis 2025 Mar-Apr 27(2):e70008	Original Articles
21	Yoshikazu Hori, Hiroki Hosoi, Takayuki Hiroi, et al	血液内科学講座	Utilizing Clinical Transformation Criteria for Prognostic Stratification in Follicular Lymphoma Prior to Initial Immunochemotherapy	Hematol Rep 2024 Oct 4 16(4):612-623	Original Articles
22	Shotaro Tabata, Hiroki Hosoi, Ke Wan, et al	血液内科学講座	Comparison of platelet transfusion effectiveness between Helicobacter pylori-positive and -negative immune thrombocytopenia	Br J Haematol 2024 May 204(5):1953-1957	Brief Report
23	Hiroki Hosoi, Yoshikazu Hori, Katsuhiro Fukutsuka, et al	血液内科学講座	Detection of the JAK2 V617F Mutation in Urinary Cell-free DNA in Patients with Myeloproliferative Neoplasms	Intern Med 2024 Jul 15 63(14):1987-1993	Original Articles
24	Seiji Emori, Kodai Kume, Yoshiaki Nakayama, et al	脳神経内科学講座	C9orf72 repeat expansions in Wakayama: One potential cause of amyotrophic lateral sclerosis in the Kii Peninsula, Japan	J Neurol Sci 2024 Nov 15 466:123209	Original Articles
25	Katsuichi Miyamoto, Keishu Murakami, Mayumi Sakata, et al	脳神経内科学講座	Predictive complement biomarkers for relapse in neuromyelitis optica spectrum disorders	Mult Scler Relat Disord 2025 Feb 94:106282	Original Articles

26	Keishu Murakami, Jinsoo Koh, Shuhei Ogami, et al	脳神経内科学講座	Prevalence, Impact, and Screening Methods of Sarcopenia in Japanese Patients With Parkinson's Disease: A Prospective Cross-Sectional Study	Cureus 2024 Jul 24 16(7):e65316	Original Articles
27	Yohei Aoki, Mayumi Sakata, Hidekazu Suzuki, et al	脳神経内科学講座	Efficacy of apheresis in antibody-negative progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus	Ther Apher Dial 2025 Jun 29(3):512-515	Case Report
28	Keishu Murakami, Yoshiaki Nakayama, Shigeru Iwata, et al	脳神経内科学講座	Rheumatoid meningitis in the absence of active synovitis: A potential association of semaphorin 4A	J Neuroimmunol 2025 Mar 15 400:578548	Original Articles
29	Keishu Murakami, Katsuichi Miyamoto, Jinsoo Koh, et al	脳神経内科学講座	Three-year follow-up of rheumatoid meningitis with matrix metalloprotease-9 levels in the serum and cerebrospinal fluid as indicators of disease activity: A case report	J Neuroimmunol 2024 May 15 390:578331	Case Report
30	Shoko Yorozu, Jinsoo Koh, Katsuichi Miyamoto, et al	脳神経内科学講座	Intravenous methylprednisolone therapy for ocular myasthenia gravis: A retrospective study	Neurology and Clinical Neuroscience 2024 Sep 12(5):278-282	Original Articles
31	Tomoya Tsuchihashi, Yuki Cho, Daisuke Tokuhara, et al	小児科学講座	Fontan-associated liver disease: the importance of multidisciplinary teamwork in its management	Front Med (Lausanne) 2024 Nov 27 11:1354857	Review
32	Nobuyuki Kakimoto, Hiroyuki Suzuki, Akira Taruya, et al	小児科学講座	Vasa vasorum enhancement on optical coherence tomography in Kawasaki disease	Pediatr Res 2025 Feb 97(3):1090-1095	Original Articles
33	Hiroshi Tsujimoto, Shinji Kounami, Takayuki Ichikawa, et al	小児科学講座	Granulocyte morphological abnormalities and molecular diagnosis of SRP54 deficiency in severe congenital neutropenia	Pediatr Int 2025 Jan-Dec 67(1):e15881	Case Report
34	Hideto Iguchi, Hiroaki Akamatsu, Yoshimitsu Hirai, et al	外科学第一講座	Can FDG-PET after neoadjuvant chemotherapy plus nivolumab predict residual disease in non-small cell lung cancer?	Respirol Case Rep 2024 Aug 19 12(8):e70007	Case Report

35	Takahito Nakaya, Yoshimitsu Hirai, Hiroaki Akamatsu, et al	外科学第一講座	Neoadjuvant nivolumab plus chemotherapy followed by resection for superior sulcus tumour with high PD-L1 expression: A case report	Respirol Case Rep 2024 Apr 25 12(5):e01358	Case Report
36	Ryo Nakamura, Yasutsugu Shiono, Kentaro Honda, et al	外科学第一講座	Risk factors for unsuccessful restoration of coronary flow reserve after coronary bypass surgery	Int J Cardiol 2024 Nov 1 414:132419	Original Articles
37	Yoshimitsu Hirai, Yuichi Takahashi, Takahiro Kaki, et al	外科学第一講座	Rosai-Dorfman disease differentiated from a posterior mediastinal tumour: a case report	J Surg Case Rep 2024 Jul 11 2024(7):rjae455	Case Report
38	Kentaro Honda, Teruaki Wada, Hideki Kunitomo, et al	外科学第一講座	Simultaneous gastroepiploic artery to right coronary artery bypass and trans-catheter aortic valve implantation: case series	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases 2025 Jan 6 4(1):1	Case Report
39	Nobuhide Hayashi, Junya Fukai, Hirokazu Nakatogawa, et al	脳神経外科	Neuroradiological, genetic and clinical characteristics of histone H3 K27-mutant diffuse midline gliomas in the Kansai Molecular Diagnosis Network for CNS Tumors (Kansai Network) : Multicenter retrospective cohort.	Acta Neuropathologica Communications 2024 Jul 27 12(1):120	Original Articles
40	Hiroki Nishibayashi, Yasuo Nakai, Tomohiro Donishi, et al	脳神経外科	Distinct brain network structure of mesial temporal lobe epilepsy compared to that of neocortical epilepsy:	Journal of Neurosurgery. 2024 Nov 29 142(4):945-955	Original Articles
41	Nao Ohtani, Takahiro Sasaki, Toshikazu Yamoto, et al	脳神経外科	Extremely slow-growing cerebellar ganglioglioma in an elderly patient.	Surg Neurol Int 2024 Feb 2 15:33	Case Report
42	Shuhei Morita, Shinsuke Uraki, Hiroyuki Ariyasu, et al	第一内科 (脳神経外科は共著者)	Profiling of Unfolded Protein Response Markers and Effect of IRE1 $\alpha$ -specific Inhibitor in Pituitary Neuroendocrine Tumor.	Endocrinology 2024 Feb 20 165(4): bqae008.	Original Articles
43	Masatoshi Teraguchi, Yukihiko Nakagawa, Tomohiro Nakatani, et al	整形外科科学講座	Effectiveness of ultra-early balloon kyphoplasty at one year after osteoporotic vertebral fracture	J Orthop Sci 2024 Nov 27 S0949-2658(24)00261-6	Original Articles

44	Shunji Tsutsui, Hiroshi Hashizume, Hiroshi Iwasaki, et al	整形外科科学講座	Willingness to undergo the same surgery again among older patients who have undergone corrective fusion surgery for adult spinal deformity	J Clin Neurosci 2024 Sep 127:110761	Original Articles
45	Masanari Takami, Kimihide Murakami, Kento Nonaka, et al	整形外科科学講座	Transcostal Microendoscopic Discectomy for Central Thoracic Disc Herniation Causing Myelopathy: A Technical Note	Spine Surg Relat Res 2024 Jun 24 8(6):644-650	Case Report
46	Akimasa Murata, Shunji Tsutsui, Ei Yamamoto, et al	整形外科科学講座	A Bicortical Pedicle Screw in the Cephalad Trajectory Is the Best Option for the Fixation of an Osteoporotic Vertebra: A Finite Element Study	Spine Surg Relat Res 2024 Mar 11 8(5):510-517	Original Articles
47	Yuyu Ishimoto, Satoshi Arita, Hiroshi Yamada	整形外科科学講座	Enhancing gait mechanics: The effectiveness of a novel walking aid	J Orthop Sci 2025 Jan 9 S0949-2658(24)00275-6	Original Articles
48	Daisuke Nishiyama, Satoshi Arita, Daisuke Fukui, et al	整形外科科学講座	Accurate fall risk classification in elderly using one gait cycle data and machine learning	Clin Biomech (Bristol) 2024 May 115:106262	Original Articles
49	Kusushi Murai, Shizumasa Murata, Hiroki Iwahashi, et al	整形外科科学講座	Effect of Vertebral Morphology on Radiographic and Symptomatic Lumbar Spinal Stenosis in Patients Undergoing Microendoscopic	Cureus 2025 Feb 24 17(2):e79586	Original Articles
50	Kotaro Oda, Keiji Nagata, Hiroshi Hashizume, et al	整形外科科学講座	Efficacy and safety of microendoscopic anterior cervical decompression and fusion. Compared with conventional open surgery	J Orthop Sci 2025 Feb 25 S0949-2658(25)00041-7	Original Articles
51	Masatoshi Teraguchi, Yukihiko Nakagawa, Yoshio Enyo, et al	整形外科科学講座	Predictive Factors for Health-Related Quality of Life Post-Balloon Kyphoplasty in Patients with Osteoporotic Vertebral Compression Fractures	J Pain Res 2024 Nov 7 17:3619-3625	Original Articles
52	Kota Kawamura, Shizumasa Murata, Yoji Kitano, et al	整形外科科学講座	Metaphyseal comminution in distal radius fractures: a predictor of secondary fragility fractures and the role of osteoporosis treatment	Osteoporos Int 2025 Mar 36(3):447-454	Original Articles

53	Takuhei Kozaki, Takachika Shimizu, Akimasa Murata, et al	整形外科学講座	Advantages of Combined Use of Claw Hooks and Sublaminar Wires as the Upper Foundation of Long Fixation from the Thoracic Spine to the Pelvis in Osteoporotic Cases: A Finite Element Analysis of Proximal Junction Stress	Spine Surg Relat Res 2024 Aug 30 9(2):202-210	Original Articles
54	Masanari Takami, Daisuke Nishiyama, Shunji Tsutsui, et al	整形外科学講座	Pelvic Kinematics during Gait Following Long-Segment Spinal Fusion Due to Adult Spinal Deformity: An Analysis Using a Smartphone-Based Inertial Measurement Unit	Spine Surg Relat Res 2024 Aug 6 9(2):188-194	Original Articles
55	Shunji Tsutsui, Hiroshi Hashizume, Hiroshi Iwasaki, et al	整形外科学講座	Long-term outcomes after adult spinal deformity surgery using lateral interbody fusion: short versus long fusion	Clin Spine Surg 2024 Oct 1 37(8):E371-E376	Original Articles
56	Akimasa Murata, Shunji Tsutsui, Ei Yamamoto, et al	整形外科学講座	A bicortical pedicle screw in the cephalad trajectory is the best option for the fixation of an osteoporotic vertebra: a finite element study	Spine Surg Relat Res 2024 Mar 11 8(5):510-517	Original Articles
57	Masanari Takami, Shunji Tsutsui, Keiji Nagata, et al	整形外科学講座	Spinopelvic parameters in the elderly: does inadequate correction portend worse outcomes?	Spine Surg Relat Res 2024 Mar 11 8(4):439-447	Original Articles
58	Takahide Sasaki, Kazuyoshi Minamino, Yukihiro Nakagawa, et al	整形外科学講座	Ultrasound-Guided Percutaneous Achilles Tendon Repair for Acute Achilles Tendon Rupture: Modified Percutaneous Achilles Repair System Procedure for Achilles Tendon Repair Without a Jig	Cureus 2025 Jan 20 17(1):e7773	Case Report
59	Takahide Sasaki, Masahiko Shibuya, Koichi Miyazaki, et al	整形外科学講座	Clinical results of ultrasound-guided intra-arterial embolization targeting abnormal neovessels for plantar fasciitis: 66 cases with up to 4 years of follow-up	Foot and Ankle Surgery 2025 Feb 31(2):105-11	Original Articles
60	Yasuo Kohjimoto, Hiroji Uemura, Masahiro Yoshida, et al	泌尿器科学講座	Japanese clinical practice guidelines for prostate cancer 2023	Int J Urol 2024 Nov 31(11):1180-1222	Review

61	Shimpei Yamashita, Shuzo Hamamoto, Junya Furukawa, et al	泌尿器科学講座	Prognostic impact of FAN score in patients receiving nivolumab plus ipilimumab for metastatic renal cell carcinoma	Sci Rep 2024 May 29 14(1):12398	Original Articles
62	Ryusuke Deguchi, Shimpei Yamashita, Yuya Iwahashi, et al	泌尿器科学講座	Verification of surgical factors affecting the efficiency of stone extraction with one-surgeon basketing technique using a f-URSL simulation model	Investig Clin Urol 2024 Jul 65(4):351-360	Original Articles
63	Takahito Wakamiya, Yasuo Kohjimoto, Shimpei Yamashita, et al	泌尿器科学講座	Local extension findings on MRI compensate for the ability of pathological staging to predict oncological outcome	Int J Clin Oncol 2024 Dec 29(12):1811-1816	Original Articles
64	Yuya Iwahashi, Yasuo Kohjimoto, Ryusuke Deguchi, et al	泌尿器科学講座	Area of hydronephrosis is a useful predictive factor of impacted ureteral stones	Urolithiasis 2024 Apr 2 52(1):56	Original Articles
65	Yuya Iwahashi, Ryusuke Deguchi, Satoshi Muraoka, et al	泌尿器科学講座	Impact of postoperative sexual function on health-related quality of life after robot-assisted radical prostatectomy	Curr Urol 2024 Jun 18(2):148-154	Original Articles
66	Yasuo Kohjimoto, Akinori Iba, Shimpei Yamashita, et al	泌尿器科学講座	Pharmacotherapy for patients with calcium oxalate stones and abnormal urine chemistry: A systematic review and meta-analysis for the Japanese Clinical Practice Guidelines for the Management of Urinary Stones, Third Edition	Int J Urol 2025 Jan 32(1):16-28	Review
67	Yasuo Kohjimoto, Shimpei Yamashita, Yuya Iwahashi, et al	泌尿器科学講座	Non-contrast CT attenuation value of renal papilla is a novel predictor of recurrence in kidney stone disease	BMC Urol 2024 Dec 23 24(1):279	Original Articles
68	Yuya Iwahashi, Takahito Wakamiya, Hiroki Kawabata, et al	泌尿器科学講座	Comparison of Prognosis and Health-Related Quality of Life Between Robot-Assisted Radical Prostatectomy Versus High-Dose-Rate Brachytherapy Combined With External Beam Radiation Therapy and Hormone Therapy for High-Risk Prostate Cancer	Prostate 2025 Mar 85(4):327-336	Original Articles

69	Shimpei Yamashita, Shuzo Hamamoto, Junya Furukawa ,et al	泌尿器科学講座	Efficacy and Safety of Nivolumab Plus Ipilimumab for Metastatic Renal Cell Carcinoma in Patients 75 Years and Older: Multicenter Retrospective Study	Cancers (Basel) 2025 Jan 31 17(3):474	Original Articles
70	Hiroki Kawabata, Yuya Iwahashi, Ryusuke Deguchi,et al	泌尿器科学講座	Poor performance status is a risk factor for higher detection of Gram positive coccus in stone-related pyelonephritis	J Infect Chemother 2024 Jun 30(6):526-530	Original Articles
71	Shimpei Yamashita, Shuzo Hamamoto, Junya Furukawa,et al	泌尿器科学講座	Association of lung immune prognostic index with survival outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with nivolumab plus ipilimumab	Jpn J Clin Oncol 2024 Jun 1 54(6):722-729	Original Articles
72	Shimpei Yamashita, Hiroki Kawabata, Yuya Iwahashi,et al	泌尿器科学講座	Pembrolizumab Plus Lenvatinib for Metastatic Renal Cell Carcinoma in a Patient on Hemodialysis	IJU Case Rep 2025 Mar 9 8(3):223-226	Case Report
73	Nakata Kumiko,Iwahashi Naoyuki,Nishioka Kaho,et al	産婦人科	Risk factors for poor perinatal and neonatal outcomes in pregnant women with subchorionic hematoma	Archives of Clinical Obstetrics and Gynecology Research 2025 Jan 4(1):25-02	Original Articles
74	Atsufumi Kamisako, Motoki Nakai, Toru Saguchi,et al	放射線医学講座	The usefulness of contrast-enhanced subtraction magnetic resonance imaging for detecting endoleaks after endovascular aortic repair with prophylactic intraoperative sac embolization	Acta Radiol 2024 Oct 65(10):1205-1210	Review
75	Takaya Inagaki, Yasutaka Noda, Yuya Iwahashi,et al	放射線医学講座	Escalating the dose of high-dose-rate brachytherapy combined with external beam radiotherapy improves the disease control rate in patients with high- or very-high-risk prostate cancer	Brachytherapy 2025 Mar-Apr 24(2):223-230	Review
76	Akira Ikoma, Atsufumi Kamisako, Ryuta Okuhira,et al	放射線医学講座	Retrograde embolization of internal iliac artery aneurysms that enlarged after proximal ligation: A report of 5 patients	Radiol Case Rep 2024 Sep 23 19(12):6165-6174	Case Report

77	Kazuki Wakabayashi, Hajime Monzen, Hiroshi Doi, et al	放射線医学講座	Initial Clinical Experience of a Novel Shapeable Bolus for Radiotherapy in a Patient With a Facial Cutaneous Squamous Cell Carcinoma: A Case Report	Cureus 2024 Apr 1 16(4):e57415	Case Report
78	Shota Ueda, Tetsuo Sonomura, Ryuta Okuhira, et al	放射線医学講座	Usefulness of computed tomography aortography and dye infusion in confirming the feeding arteries for effective treatment of a large squamous cell carcinoma of the lower lip with a single intra-arterial infusion chemotherapy	Radiol Case Rep 2024 Aug 29 19(11):5350-5353	Case Report
79	Kodai Fukuda, Tetsuo Sonomura, Nobuyuki Higashino, et al	放射線医学講座	An anomalous left adrenal vein draining into both the left renal vein and inferior vena cava: A case report	Radiol Case Rep 2024 Jul 31 19(10):4435-4439	Case Report
80	Ken Kouda, Motohiko Banno, Yasunori Umemoto, et al	リハビリテーション医学講座	The Acute Effect of Hot Water Immersion on Cardiac Function in Individuals with Cervical Spinal Cord Injury	J Clin Med 2024 Dec 13 13(24):7593	Original Articles
81	Ken Kouda, Takeshi Nakamura, Yoshi-Ichiro Kamijo, et al	リハビリテーション医学講座	Increases of peripheral blood pressure in men with cervical spinal cord injuries	Medicine (Baltimore) 2025 Mar 21 104(12):e41887	Original Articles
82	Yuu Hashimoto, Yasunori Umemoto, Shigeru Suzuki, et al	リハビリテーション部	Immediate effects of simple palatal augmentation prosthesis in maximum tongue pressure and swallowing functions for acute stroke patients: An observational study	J Prosthodont Res 2025 Jan 10 69(1):76-81	Original Articles
83	Keiko Yamasaki, Keisuke Fujii, Yasuo Kohjimoto, et al	麻酔科学講座	Lower extremity pain and/or numbness after laparoscopic surgery and robot-assisted surgery in the lithotomy position combined with the Trendelenburg position	J Anesth, 2024 Dec 38(6):821-827	Original Articles
84	Keiichi Nagasawa, Masayuki Nishibata, Sarah Kyuragi Luthe, et al	麻酔科学講座	A rare case of endotracheal tube cuff leakage with no detectable decrease in cuff pressure	JA Clin Rep 2024 Nov 12 10(1):71	Case Report
85	Akihiro Ura, Keisuke Fujii, Tadashi Tanioku, et al	麻酔科学講座	Repeated complete atrioventricular block during remifentanyl administration in a pediatric patient with brain tumor and acute hydrocephalus: a case	BMC Anesthesiol 2024 Aug 9 24(1):279	Case Report

86	Masamitsu Kono, Daichi Murakami, Hideki Sakatani, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Factors affecting the antimicrobial changes during treatment for acute otitis media in Japan: A retrospective cohort study using classification and regression trees (CART) analysis	J Infect Chemother 2024 Sep 30(9):832–837	Original Article
87	Ryota Shibaki, Daichi Fujimoto, Eisaku Miyauchi, et al	内科学第三講座	Durvalumab with etoposide and carboplatin for patients with extensive-stage small cell lung cancer and interstitial lung disease: A multicenter, open-label prospective trial	Lung Cancer, 2024 Oct 196:107958	Original Articles
88	Hiroaki Akamatsu, Yasuhiro Koh, Makoto Nishio, et al	内科学第三講座	Comprehensive serum biomarker analysis reveals IL-8 changes as the only predictor of the effectiveness of immune checkpoint inhibitors for patients with advanced non-small cell lung cancer	Lung Cancer 2024 Dec 198:108017	Original Articles
89	Hiroaki Akamatsu, Tomomi Nishikawa, Yuriko Takeda, et al	内科学第三講座	Longitudinal recurrence risk of adjuvant cytotoxic chemotherapy and gefitinib in resected lung cancer: A combined analysis of phase III studies	Lung Cancer 2025 Mar 201:108437	Original Articles
90	Daichi Fujimoto, Ryota Shibaki, Keiichi Kimura, et al	内科学第三講座	Identification of key gene signatures for predicting chemo-immunotherapy efficacy in extensive-stage small-cell lung cancer using machine learning	Lung Cancer 2025 Jan 199:108079	Original Articles
91	Daichi Fujimoto, Hidetoshi Hayashi, Kenta Murotani, et al	内科学第三講座	Prediction of prognosis in lung cancer using machine learning with inter-institutional generalizability: A multicenter cohort study (WJOG15121L: REAL-	Lung Cancer 2024 Aug 194:107896	Original Articles
92	Katsuyuki Furuta, Daichi Fujimoto, Atsushi Matsunashi, et al	内科学第三講座	Prognostic impact of cytokines and chemokines in bronchoalveolar lavage fluid on acute exacerbation of fibrosing interstitial lung disease	Respir Med 2024 Sep 231:107721	Original Articles

93	Toshio Shimizu, John Powderly, Albiruni Abdul Razak, et al	内科学第三講座	First-in-Human Phase 1 Dose-Escalation Results With Livmoniplimab, an Antibody Targeting the GARP:TGF- $\beta$ 1 Complex, as Monotherapy and in Combination With the Anti-PD-1 Antibody Budigalimab in Patients With Advanced Solid	Front Oncol 2024 Oct 29 14:1376551	Original Articles
94	Hiroaki Akamatsu, Shinya Sakata, Koichi Azuma, et al	内科学第三講座	A Single-Arm Phase 2 Study of Sotorasib Plus Carboplatin and Pemetrexed in Patients With Advanced Nonsquamous NSCLC With KRAS G12C Mutation	J Thorac Oncol 2025 Jun 20(6):775-785	Original Articles

計94件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yuto Nakano, Ken Takeshima, Yasushi Furukawa, et al	内科学第一講座	Concomitant Exacerbation of Graves Orbitopathy and Double-Seronegative Myasthenia Gravis after SARS-CoV-2 Infection	JCEM Case Rep 2025 Jan 29 3(2):luaf019	Case Report
2	Kosuke Osawa, Shuto Yamamoto, Yukiko Yamano, et al	腎臓内科学	Overlapping Atypical Hemolytic Uremic Syndrome and C3 Glomerulopathy with Mutation in CFI in a Japanese Patient: A Case Report	Intern Med 2024 Jun 15 63(12): 1777-1782	Case report
3	Yoshikazu Hori, Hiroki Hosoi, Toshiki Mushino, et al	血液内科学講座	Central nervous system relapse after combination therapy including polatuzumab vedotin in patients with diffuse large B-cell lymphoma	Leuk Res Rep 2024 May 31 21:100467	Case Report

4	Shinichi Yamada, Shun Takahashi, Daniel Keeser, et al	神経精神医学講座	Impact of excessive abdominal obesity on brain microstructural abnormality in schizophrenia	Psychiatry Res Neuroimaging 2024 Oct 344:111878	Original Article
5	Junya Kitadani, Toshiyasu Ojima, Keiji Hayata, et al	外科学第二講座	Robotic gastrectomy using hinotori™ Surgical Robot System: Initial case series	Asian J Endosc Surg 2024 Jul 17(3):e13349	Original Article
6	Daisuke Fukui, Daisuke Nishiyama, Manabu Yamanaka, et al	整形外科科学講座	Development of a Novel Rat Knee Osteoarthritis Model Induced by Medial Meniscus Extrusion	Cartilage 2025 Mar;16(1):108-11	Original Article
7	Kazuki Ueno, Yasuhiro Sakata, Mari Kawaji, et al	形成外科学講座	Late Hematoma After Feminizing Augmentation Mammoplasty Mimicking Breast Implant-Associated Anaplastic Large Cell Lymphoma (BIA-ALCL)	Eplasty 2024 May 24 24:e32	Case report
8	Yukihisa Takada, Shingo Yasuda, Takayoshi Sumioka, et al	眼科学講座	Effects of Ripasudil Hydrochloride on Epithelial Repair in a Mouse Cornea	Curr Eye Res 2024 Dec 49(12):1215-1222	Original Article
9	Makiko Ohtani, Masamitsu Kono, Shunji Tamagawa, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	Epiglottic retraction is useful in diagnosis of exercise-induced laryngeal obstruction.	Acta Otolaryngol. 2024 May-Jun;144(5-6):392-397	Case report
10	Ken Kouda, Motohiko Banno, Hideki Konishi, et al	リハビリテーション医学講座	The Relationship between Physical Function and Quality of Life in Elderly People Requiring Long-term Care	Prog Rehabil Med 2025 Feb 14 10:20250005	Original Article
11	Yusuke Kido, Masatoshi Teraguchi, Kanae Mure, et al	救急・集中治療医学講座	The single-leg stand-up test as a simple and effective tool for assessing motor function in children - KID loco study	J Orthop Sci 2025 Feb 25 S0949-2658(25)00036-3	Original Article

12	Fumiyoshi Kojima, Ibu Matsuzaki, Fidele Yambayamba Musangile, et al	人体病理学講座	Implication of KMT2C and TSC2 variants in the tumorigenesis of acquired cystic disease-associated renal cell carcinomas	Ann Diagn Pathol 2024 Dec 73:152364	Original Article
----	---	---------	---	---	------------------

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 「倫理審査委員会の審査及び運営に関する標準業務手順書」 倫理審査委員会が行う審査の手続きと委員会の運営に係る手順を定めるもの 「人を対象とする生命科学・医学系研究に係る標準業務手順書」 倫理指針に基づく研究の適正な実施並びに個人情報の保護に関する法律および関連法令等に基づく学術研究目的で行う個人情報等の適正な取り扱いについて、必要な手続きと運用の手順を定めるもの。 「人を対象とする生命科学・医学系研究における重篤な有害事象発生時の対応手順書」 本学で行われる侵襲を伴う研究で重篤な有害事象が発生した際の対応手順を定めるもの。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 利益相反ポリシー、セーフ・ハーバー・ルール、委員会規程、臨床研究及び治験等に係る利益相反マネジメント実施要綱、企業からの研究員の受入に係る利益相反マネジメント実施要領	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年9回
---------------------------------------	-----

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>Eラーニングシステムによるオンラインでの研究者向け講習を実施。</p> <p>(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の対象となる研究を行う研究者向けの「Basicコース」と臨床研究法の対象となる研究を行う研究者向けの「臨床研究法コース」の2コース)</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【糖尿病・内分泌・代謝内科】

当科は、糖尿病と内分泌・代謝疾患の専門的な診療を行っており、多くの専門医による充実した指導体制のもと、専攻医に高度な医療に関する研修を提供している。

糖尿病領域においては、1型糖尿病などに対するインスリンポンプ療法（SAP療法）の導入から管理までを実践的に研修できるほか、持続血糖モニタリング（CGM）のデータ解析とそれに基づいた治療方針の決定方法を学ぶことができる。また、専門的な肥満症治療についても研修機会を提供している。

内分泌領域においては、甲状腺結節に対する穿刺吸引細胞診の技術習得や、治療が難しいバセドウ病の管理について研修します。加えて、下垂体や副腎の疾患に関しても、県内全域から紹介される豊富な症例を通じて、診断から治療までの一連のプロセスを学ぶことが可能である。

【消化器内科】

内科専門医研修を基本とし、サブスペシャリティ領域として、消化器病専門医の研修を行う。さらに次のステップとして、肝臓専門医あるいは消化器内視鏡専門医の研修を行う。

【呼吸器内科・腫瘍内科】

和歌山県立医科大学内科専門医研修プログラムによる専門研修を行う。まずは内科専門医取得を目標とし、呼吸器学会、アレルギー学会、呼吸器内視鏡学会、臨床腫瘍学会などの指導医（医局スタッフ）の指導のもとで、専門的な診断・治療の知識、手技の経験と習得が可能である。

【循環器内科】

循環器病の診療は正しい診断から始まります。身体所見と心電図、胸部X線写真など基本的検査を読み解いて情報収集を行います。心臓超音波検査、心臓CT、心臓MRIなど先端的画像診断機器を用い、必要に応じて心臓カテーテル検査、電気生理学的検査など侵襲的診断を追加して病態に迫ります。診断がついた後は治療です。薬物療法のみならず低侵襲手術を内科医が実施できるのが、循環器内科の特徴の一つです。具体的には経皮的冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、ペースメーカー植込み、経カテーテル的大動脈弁留置術、経皮的僧帽弁接合不全修復術など従来なら手術でしか治療できなかった疾患を内科医の手によって根本治療が可能です。研修目標としては、まず内科医そして循環器内科医としての臨床能力を身につけていただきます。その上で循環器内科のサブスペシャリティを専攻し、最終的には世界で唯一無二を目指す、すなわち研究遂行能力を習得していただきます。

【腎臓内科（人工透析）】

1. 健診や学校検尿における検尿異常から腎生検が施行でき、腎臓病を早期に診断できる
2. 慢性腎炎、ネフローゼ症候群に対して適切な治療を選択できる
3. 保存期腎生検の管理として透析遅延のための適切な治療管理ができる
4. 急性血液浄化療法の適応を判断し施行できる
5. 透析導入に対して腎代替療法の全てを患者に説明し選択できる機会を与える
6. 血液透析においてバスキュラーアクセス作成を行い管理ができる
7. 血液透析及び腹膜透析の適正な維持透析管理ができる
8. 長期透析患者の合併症管理ができる
9. 腎移植患者の適正な管理ができる

【血液内科】

卒後3年目から5年目までは原則、新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科大学内科専門研修プログラム」に従って研修を行う。一般内科疾患や救急疾患のマネジメントができるよう血液疾患を通じて能力を身につけることを目標とする。血液疾患の診断、血液標本の診断を基本とし、大学病院で行うことができる先進医療についても研修する。悪性リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫などの悪性腫瘍の化学療法、自家・同種造血幹細胞移植についても目標症例数を設定して幅広く研修する。研修期間中に学会発表、論文発表を年1回以上を目標に行えるよう指導する。本年度からCAR-T療法を導入し、CAR-T療法にともなうサイトカインストーム症候群の管理も学べる環境が整っている。

#### 【脳神経内科】

病院での勤務を中心に臨床神経学を学び、最短7年目で神経内科専門医を取得できるプログラムや大学病院での研究、希望に応じて海外留学もできるプログラムを用意しております。いずれの場合でも、原則3年目は大学病院でしっかり神経学の基礎を学んでいただくため、大学病院で医員という立場で研修をスタートします。大学では病棟医として勤務していただきます。診療体制としては、病棟医長をはじめとした医局スタッフが研修医の直接指導にあたっており、彼らをリーダーとして3-4チームのグループ診療を行っております。病棟では教授回診を毎週行っております。また、教授外来の新患外来に付いて外来診療を学ぶこともできます。定期的に神経生理学的検査（筋電図・伝導速度検査・大脳誘発電位検査、脳波など）や頸動脈超音波検査・経頭蓋超音波検査を実施しており、担当教員から直接指導を受け、検査の仕方、所見の読み方を学習します。

#### 【リウマチ・膠原病内科】

膠原病は全身性の自己免疫疾患であるため、自己抗体や抗核抗体の陽性率が高く、かつそれらは臨床的意義を有している。また一方で、各疾患特異的に活性化しているサイトカインが多く報告されており、それらを制御する生物学的製剤（分子標的薬）も日常診療で積極的に使用されている。したがってリウマチ・膠原病内科においては、患者の血清中における自己抗体やサイトカインの活性化を的確に把握し、治療法（薬剤）を選択するかが重要である。研修統括者および当科のスタッフはこの点において経験値が高く、かつ習熟しているため、患者の臨床症状や検査所見から適切な分子標的療法を選択できるよう研修を行っている。また分子標的療法はしばしば特殊な副反応の原因となることがあるため、これらの対応にも専門的な知識が必要となり、研修医には指導している。

#### 【小児科】

専門医機構の認定を受けた「和歌山県立医科大学小児科専門研修プログラム」に沿って研修を行う。附属病院内の小児医療センターと総合周産期母子医療センターで研修を行い、小児医療センターで感染性疾患・内分泌代謝疾患・血液腫瘍疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、総合周産期母子医療センターで新生児疾患・先天異常疾患・小児外科疾患を研修する。さらに、本附属病院では1次から3次までの救急患者を受け入れる体制も有しているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修する。

#### 【神経精神科】

大学病院の精神科としては大規模の40床の精神科病床を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分な空間を確保し、研修を行っている。具体的には、統合失調症や気分障害、認知症や発達障害などの精神科医としてのプライマリーな疾患、および特定機能病院に足りる難治例、身体合併症例等のケース、また総合病院精神科として必要なリエゾン精神医学にも対応している。専攻医は主に入院患者の主治医となり、指導医の指導を受けながら、看護師、心理士、薬剤師、精神保健福祉士およびリハビリテーション等の各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、反復経頭蓋磁気刺激療法、修正型電気けいれん療法などの治療を柔軟に組み合わせる最善の治療を行う機会を提供している。また週2回、合同カンファレンスを行い、個々の症例に対して専攻医にフィードバックするほか、

生涯学習・自己研鑽・リサーチ・マインドの醸成の目的で、月1回の英文抄読会と症例検討会を実施し専攻医の研修に当たっている。

#### 【心臓血管外科、呼吸器外科・乳腺外科】

1. 心臓血管外科では術者として胸骨正中切開、大伏在静脈採取、体外循環装着、難易度に応じて下肢動脈バイパスなどを行う。第一助手または第二助手として開心術に参加する。ICU管理を含めた開心術の周術期管理を研修する。

2. 呼吸器外科では術者として難易度に応じて小開胸胸腔鏡下手術を行う。第一助手、第二助手として呼吸器外科手術（ロボット手術を含む）に参加する。呼吸器外科の周術期管理を研修する。

3. 乳腺外科では術者として単純乳房切除術を行う。第一助手または第二助手として乳癌手術に参加する。乳癌の画像診断、薬物治療、放射線治療を学ぶ。乳腺外科の周術期管理を研修する。

#### 【消化器・内分泌・小児外科】

低・中難易度の症例は主治医として研修をさせており、一定の手技の指導を行っている。

高難易度の症例は主に手術助手として参加し、周術期管理を教育している。

#### 【脳神経外科】

脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。各領域に2名程度の研修統括者を配置し、研修医の指導を行っている。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を1週間あたり2～3症例の頻度で行われており研修医は短期間でも効率的に密度の高い研修が行える。

#### 【整形外科】

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

#### 【形成外科】

形成外科は、外傷、腫瘍、先天異常による欠損や変形の病態を把握し、診断法を習熟した後、再建法のプランニングが立案できることを目標とする。

また、特定の担当臓器をもたない形成外科は、チーム医療の重要性を示す。

#### 【泌尿器科】

和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科においては、泌尿器科悪性腫瘍に対するロボット支援手術（年間約200例）や腹腔鏡手術（年間約20例）が多いため、泌尿器科診療に必要な解剖や術式の理解が得やすいのみならず、手術の基本的な手技の習得も可能である。

その他にも、排尿障害、尿路結石、女性泌尿器、小児泌尿器、腎移植なども扱っており、それぞれの領域を専門とする指導医の下で研修を受けることができる。泌尿器科専門医のみならず、がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医などの取得も可能である。

#### 【産科・婦人科】

産科婦人科においては、産科婦人科専門医（14名）の指導の下、全ての領域における研修をおこなっている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医3名、婦人科では婦人科腫瘍専門医4名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。

#### 【眼科】

複数の指導医の元で主治医として軽症から重症まで幅広く疾患を受け持ち、患者との接し方を学び、向上させるとともに、検査・診察及び治療方針の決定に携わる。また、多くの患者の手術介助、症例検討会でのプレゼンテーション、地方及び全国学会発表を行っている。

#### 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】

基幹研修施設である和歌山県立医科大学附属病院と、和歌山県下および大阪府下を中心とした地域の基幹病院、専門病院、地域医療を担う病院群よりなる多彩な関連研修施設において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科専門研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。また、旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、がん研有明病院頭頸科、大阪大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科との相互連携を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者（関連研修施設）、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価を行います。4年間の研修修了時には、すべての領域の研修到達目標を達成することができます。さらに、4年間の研修中、認定されている学会において学会発表を少なくとも3回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・公表を行う。研修の評価や経験症例は、日耳鼻が定めた方法でオンライン登録します。専門医および学位取得コースとして、大学院博士過程進学が可能です。大学院在籍期間は4年間で、大学院進学時期により年次プログラムが変動します。大学院進学時期から専攻医が興味を持つ領域の研究テーマを臨床実習の学術的なバックグラウンドを肉付けするようにして研究をスタートします

#### 【皮膚科】

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える

#### 【歯科口腔外科】

後期研修では、麻酔科学講座及び救急集中治療医学講座のご協力の下、麻酔研修及び救急研修を行っている

#### 【放射線科】

##### ・放射線診断領域

320列CT装置や3T MRI装置を備えており、レポートシステムを用いて上級医によるダブルチェックによる研修体制を整えている

##### ・放射線治療分野

汎用リニアック装置（Synergy）、IMRT専用機（Radixact）、小線源治療装置（MicroselectronV3）を備えており、高精度治療に対応した研修を行っている。またRI治療の研修にも対応している

##### ・IVR分野

320列IVR-CT装置を有する血管造影室を備えており高度治療に対応した研修を実施している。

**【リハビリテーション科】**

- ・ICUを含めた重症患者の超急性期および侵襲度の高い手術患者の周術期、特殊な治療法を受けている患者に対するリハビリテーション医療に関する診察、検査、リハビリテーション処方等の指導と実践を行う。
- ・リハビリテーション医療の専門領域である運動器リハビリテーション、脳血管疾患リハビリテーション、心大血管疾患リハビリテーション、呼吸器リハビリテーションを含め、各疾患に対するリハビリテーション医療を指導する。
- ・義肢装具外来、嚥下造影検査、脊髄損傷外来、痙縮治療外来など当科の専門外来を運用するための知識と技術を習得する。

**【救急科】**

救急科領域研修カリキュラムに定めた一般目標、行動目標、評価方法をそれぞれ研修項目として救急外来（ER）、集中治療室（ICU）、救急一般病棟、ドクターヘリで出動し、救急現場等で患者さんに対応することで臨床現場での学習を行います。また、臨床現場を離れた学習として各種OJTコースの受講や救急医学に関連する学術集会への参加及び認定された講演の受講等を行います。

**【麻酔科】**

周術期医療との観点から術前計画、麻酔計画、術中管理、術後管理の研修を行っている。これらについて、麻酔科専門医17名、ペインクリニック専門医6名、緩和医療専門医2名、心臓血管麻酔専門医3名で指導しており、高度な周術期医療の研修を行う。

**【病理診断科】**

病理診断科では、病理学総論的・各論的知識、最新の分子病理学的手法、病理診断に必要な臨床的知識を学ぶことにより、実践的で論理的な病理診断法の習得に主眼を置き、若い先生方が病理医としてより早く自立できるような魅力的な病理専門医及び細胞診専門医の研修プログラムを組んでいます。具体的には、専門医と1対1の指導の元、組織診、細胞診、病理解剖における病理診断のための観察法の基礎や基本的診断法及び診断に重要な染色法や分子病理学的手法で学びます。病理診断学の中の専門性についても、当初は偏った臓器ではなく、全身の幅広い分野の病理診断を経験していただき、その中から各専攻医の先生が興味を持たれた分野を専門にされるよう指導を行っています。また、同時に大学院博士課程に進むなど専攻医の希望にも柔軟に対応できる複数のプログラムを用意しています。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

**2 研修の実績**

上記研修を受けた医師数	74人
-------------	-----

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

**3 研修統括者**

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松岡孝昭	糖尿病内分泌代謝内科	教授	35年	
北野 雅之	消化器内科	教授	35年	
中西 正典	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	32年	
赤松 弘朗	呼吸器内科・腫瘍内科	准教授	22年	

田中 篤	循環器内科	教授	35年	
北端 宏規	循環器内科	准教授	28年	
荒木 信一	腎臓内科	教授	34年	
園木 孝志	血液内科	教授	37年	
宮本 勝一	脳神経内科	教授	33年	
藤井 隆夫	リウマチ・膠原病内科	教授	36年	
徳原 大介	小児科	教授	27年	
紀本 創兵	神経精神科	教授	23年	
西村 好晴	心臓血管外科	教授	38年	
平井 慶充	呼吸器外科	准教授	20年	
宮坂 美和子	乳腺外科	助教	19年	
川井 学	消化器・内分泌・小児外科	教授	30年	
松田 健司	消化器・内分泌・小児外科	准教授	29年	
速水 晋也	消化器・内分泌・小児外科	講師	22年	
早田 啓治	消化器・内分泌・小児外科	講師	22年	
三谷 泰之	消化器・内分泌・小児外科	講師	22年	
中尾 直之	脳神経外科	教授	39年	
北山 真理	脳神経外科	講師	26年	
八子 理恵	脳神経外科	講師	24年	
石井 政道	脳神経外科	助教	18年	
中井 康雄	脳神経外科	講師	17年	
中西 陽子	脳神経外科	助教	17年	
矢本 利一	脳神経外科	講師	16年	
佐々木貴浩	脳神経外科	講師	15年	
友渕 匡紀	脳神経外科	助教	12年	
山田 宏	整形外科	教授	37年	
朝村 真一	形成外科	教授	29年	
柑本 康夫	泌尿器科	教授	31年	
井籠 一彦	産科・婦人科	教授	38年	
雑賀 司珠也	眼科	教授	36年	
保富 宗城	耳鼻咽喉科頭頸部外科	教授	34年	
神人 正寿	皮膚科	教授	26年	アレルギー科
山本 有紀	皮膚科	准教授	35年	
国本 佳代	皮膚科	准教授（寄附講座）	21年	
稲葉 豊	皮膚科	講師	16年	
松村 達志	歯科口腔外科	教授	29年	
田坂 ゆかり	歯科口腔外科	助教	16年	
家田 晋輔	歯科口腔外科	助教	16年	
溝端 直樹	歯科口腔外科	助教	12年	
南口 博紀	放射線科	准教授	30年	
幸田 剣	リハビリテーション科	教授	26年	
井上 茂亮	救急・集中治療部	教授	24年	
川股 知之	麻酔科	教授	34年	

村田 晋一	病理診断科	教授	39年
-------	-------	----	-----

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容：看護過程と看護実践能力の育成、看護マネジメント力の育成、自己他者教育力の育成
- ・研修の期間・実施回数 2024年4月～2025年3月 52回
- ・研修の参加人数 1610人

【中央検査部】

- ・研修の主な内容  
「NAD Worldと細胞老化」、「当院における肺癌遺+E16:E19伝子検査の現状」  
「CBCの測定誤差要因と対処法」、「バイオバンク（検体管理部門）」  
「SOS/VOD HokuS-10について」、「咳嗽力評価」  
「肝炎医療コーディネーターと肝疾患相談支援センターの活動」  
「梅毒の現状から検査・診断・治療について」、「日本医療検査学会発表 予演会」  
「令和6年度近畿支部医学検査学会発表 予演会」、「VEXAS症候群」  
「法的脳死判定における関わる臨床検査技師の立場」、  
「反応タイムコースについて」、「不安に思うこと、わからないこと -生化学編-」  
「第43回和歌山県医学検査学会発表 予演会」、「第43回和歌山県医学検査学会発表予演会」  
「病院感染対策について」、「数字でみる輸血業務」  
「CAR-T細胞療法への臨床検査技師の関与」
- ・研修の期間・実施回数  
2024年4月～2025年3月まで 19回開催
- ・研修の参加人数  
延べ531名（27.9人/回）

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容：令和6年度医療放射線研修（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 1回
- ・研修の参加人数：185名（医師以外）
  
- ・研修の主な内容：RI規制法に基づく教育訓練（e-ラーニング講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 1回
- ・研修の参加人数：65名（医師以外）
  
- ・研修の主な内容：放射線診療従事者のための研修会（e-ラーニング講習）
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 1回
- ・研修の参加人数：168名（医師以外）
  
- ・研修の主な内容：放射性同位元素の防護に関する教育訓練（DVD講習）（法令に基づく内容）
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月26日（金）～令和6年4月30日（火） 1回
- ・研修の参加人数：28名（医師以外）

【リハビリテーション部】

○リハビリテーション科クルズス

- ・主な内容：医療安全、業務システム、感染対策、医療機器管理方法、装具療法、画像の見方、急変時対応、療法室看護業務、英文抄読の方法、疾患別リハビリテーション治療 など

- ・期間、回数：令和7年度は 4月1日～9月10日まで 計25回実施
- ・研修の参加人数：それぞれ20-50名（医師、療法士、看護師、療法士学生など）
- 患者急変時の対応研修】
  - ・日時：令和7年7月3日（クルズスの一コマ）
  - ・指導：岡本医師、武内医師、齊藤医師
  - ・主な内容：医療安全（急変時対応について）講義、リハビリテーション治療中の患者急変を想定した急変時対応研修（実技）、症例検討会后、個別事例への対応検討
  - ・期間および回数：2回/年程度
  - ・研修の参加人数：20-45名程度（医師、療法士、看護師など多職種で実施）
- 津波発災時の避難訓練実施研修】
  - ・日時：令和7年5月8日（クルズスの一コマ）
  - ・指導：藤田療法士（DMAT隊員）、橋本浩実療法士・材木療法士（JRAT）
  - ・主な内容：津波警報発令後、出棟患者を2階に避難させる  
患者さんの移動能力に、担送、搬送、介助歩行などトリアージし、模擬患者を乗せたエアストレッチャー、車いすで階段を担いで昇段、など。
  - ・期間および回数：1回/年程度
  - ・研修の参加人数：20-45名程度（医師、療法士、危機対策室職員など多職種で実施）
- 【病態栄養治療部】
  - ・NST勉強会：栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処方を行うための専門知識と技術の習得を目的とする。
  - ・研修の期間・実施回数 2024年4月～2025年3月まで対面形式にて計6回 参加者151名
    1. NSTオリエンテーション研修
    2. 当院採用の経腸栄養剤について
    3. 栄養管理と検査
    4. 下痢、便秘時の薬剤について
    5. NST活動における看護師の役割について
    6. 誤嚥を防ぐ！食事介助とポジショニングの基礎
- 【臨床工学センター】
  - ・研修の主な内容 人工呼吸器、医用ポンプ、除細動器、補助循環装置、ドリップアイ等の取扱説明
  - ・研修の期間・実施回数  
新規採用・異動時 63回、新規備品購入時 29回、定期研修 32回
  - ・研修の参加人数  
新規採用・異動時 227名、新規備品購入時 354名、定期研修 494名
- 【薬剤部】
  - 研修の主な内容：看護師特定行為研修  
「NSTにおける輸液管理について」「患者の病態にあわせた輸液管理について」
    - ・研修の期間・実施回数：令和6年4月19日 1回
    - ・研修の参加人数 2名
  - 研修の主な内容：「抗がん薬治療による皮膚障害の症状およびその対策について」
    - ・研修の期間・実施回数：令和6年8月30日 1回
    - ・研修の参加人数：6名
  - 研修の主な内容：「がんの薬物療法（主に免疫チェックポイント阻害薬と分子標的薬）について」  
ポイント：効能効果や副作用、注意事項等
    - ・研修の期間・実施回数：令和6年9月25日 1回
    - ・研修の参加人数：9名

- 研修の主な内容：「消化器外科で使用されるレジメンと各薬剤の副作用について（胃癌、食道癌）」
  - ・研修の期間・実施回数：令和6年12月12日 1回
  - ・研修の参加人数：10名
- 研修の主な内容：「消化器外科で使用されるレジメンと各薬剤の副作用について（大腸癌・膵がん）」
  - ・研修の期間・実施回数：令和7年2月13日 1回
  - ・研修の参加人数：10名
- 研修の主な内容：令和6年度「医薬品安全使用のための研修会」（Eラーニング）
  - ・研修の期間・実施回数：令和6年7月1日～令和7年2月7日 ・1回
  - ・研修の参加人数
    - ①令和6年度医薬品安全管理研修（1）「麻薬取り扱いの要点」
 

看護師	( 771名)		
資格免許職	( 385名)	合計	( 1156 名)
    - ②令和6年度医薬品安全管理研修（2）「知識不足によるインスリンの過量投与」
 

看護師	( 771名)		
資格免許職	( 385名)	合計	( 1156 名)
    - ③令和6年度医薬品安全管理研修（2）「アレルギー既往歴の確認不足」
 

看護師	( 771名)		
資格免許職	( 385名)	合計	( 1156 名)

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- ・研修の主な内容：看護の補助業務を遂行するための研修（看護職員向け、看護補助員向け）
- ・研修の期間・実施回数 2024年8月～2025年3月 69回
- ・研修の参加人数 184人

【中央検査部】

- ・研修の主な内容
  - 「臨床検査部門の基本方針について」、「"CaresphereQM是正処置のやり方の説明"」
  - 「IS015189第4版手順書説明（文書管理、教育訓練、環境管理）」
  - 「IS015189第4版手順書説明（品質管理、設備管理、外注購買 技術管理）」
  - 「IS015189第4版内部監査について」、「"検査部門全体研修化学物質の取扱い"」
  - 「令和6年度防災訓練」
- ・研修の期間・実施回数 2024年4月～2025年3月まで 7回開催
- ・研修の参加人数 延べ212名（30.3人/回）

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容 昨年度のインシデント集計および解析
- ・研修の期間・実施回数 令和6年4月12日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 25名
  
- ・研修の主な内容 アミロイドイメージングについて
- ・研修の期間・実施回数 令和6年5月7日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 26名
  
- ・研修の主な内容 EUS下ドレナージ後のCTの必要性
- ・研修の期間・実施回数 令和6年7月10日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師22名

- ・研修の主な内容 手術部 O-ARMの説明会
- ・研修の期間・実施回数 令和6年8月14日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 26名
- ・研修の主な内容 Photon Counting CTについて
- ・研修の期間・実施回数 令和6年10月3日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 20名
- ・研修の主な内容 腹部の救急画像診断について
- ・研修の期間・実施回数 令和5年11月6日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 11名
- ・研修の主な内容 最近のX線撮影法について
- ・研修の期間・実施回数 令和6年12月4日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 22名
- ・研修の主な内容 患者目線に配慮した撮影室の構築について
- ・研修の期間・実施回数 令和7年1月23日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 26名
- ・研修の主な内容 最新の気管支内視鏡の概要
- ・研修の期間・実施回数 令和7年2月20日 1回
- ・研修の参加人数 診療放射線技師 21名

#### 【リハビリテーション部】

##### ○業務の管理に関するもの】

- ・新患検討会 毎日 17時00分～18時00分 医師3名、療法士1名程度、看護師等
- ・英文抄読会 毎週火曜日 8時30分～9時 医師5名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・画像カンファレンス 毎週火曜日 12時30分～13時 医師3名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・訓練室回診 毎週火曜日 16時15分～17時 医師5名、医学部・療法士学生、療法士全員
- ・リハビリテーション科入院患者検討会 毎週火曜日 13時30分～14時30分  
医師5名、医学部学生5名、看護師1名、療法士1名
- ・症例検討会 毎週木曜日 18時00分～18時30分 医師6名、医学部・療法士学生、療法士全員

#### 【病態栄養治療部】

- ・看護師の特定行為研修にて講義  
経腸栄養について 対象者：看護師 人数 5名

#### 【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容 臨床工学センター管理の医療機器の取扱説明
- ・研修の期間・実施回数 定期研修 10回、新規備品購入時 6回、新規採用・復職時 2回
- ・研修の参加人数 定期研修 271名、新規備品購入時 165名、新規採用・復職時 7名

#### 【薬剤部】

- ・研修の主な内容：新規採用医薬品等について
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 6回
- ・研修の参加人数：延べ152人
- ・研修の主な内容：医薬品情報について
- ・研修の期間・実施回数：令和6年4月～令和7年3月 19回
- ・研修の参加人数：延べ469人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【リハビリテーション部】

他施設からの卒後臨床研修生受け入れ

- ・研修の主な内容：療法士の治療技術習得、多職種でのチーム医療経験、カンファレンスへの参加、英文抄読会での発表、症例検討会での発表など
- ・研修の期間・実施回数：連続3-6ヶ月 当院に臨時職員として採用し勤務
- ・令和6年度の卒後臨床研修の参加人数：4施設からのべ13名（理学療法士12、作業療法士1） 済生会八幡総合病院、愛知医大病院、貴志川リハビリテーション病院、北出病院 など

他施設からの施設見学・短期研修生受け入れ】

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 西村 好晴
管理担当者氏名	事務局長 貴志 幸生

		保管場所	管理方法		
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	経理課 医事課 医療情報部 薬剤部	平成22年5月より、電子カルテが稼動しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要綱で禁止されている。	
		各科診療日誌			
		処方せん			
		手術記録			
		看護記録			
		検査所見記録			
		エックス線写真			
		紹介状			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	経理課 総務課	書類形式で、ファイルに綴じて管理	
		高度の医療の提供の実績	経理課 医事課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経理課		
		高度の医療の研修の実績	経理課		
		閲覧実績	経理課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課 薬剤部	書類形式で、ファイルに綴じて管理
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター サイボウズ

書類形式で、ファイルに綴じて管理

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	経理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	経理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	危機対策室
		職員研修の実施状況	医療安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	経理課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	危機対策室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課内又は管理棟書庫		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	病院長 西村 好晴
閲覧担当者氏名	医療安全推進部長 田村 彰 医事課長 掛田 雅昭 経理課長 河村 吉基
閲覧の求めに応じる場所	・医事課、経理課
閲覧の手続の概要 閲覧の求めに応じて開示(一部はホームページなどに掲載)	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無																
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>和歌山県立医科大学附属病院は、安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献することを理念としており、ハイリスクな先端医療や臨床研究及び最新の看護技術などを、安全に患者に提供することが求められている。しかし、医療は潜在的に不確実な要素とリスクを多分に含んでおり、医療行為を行う以上、有害事象の発生は不可避であることも事実である。</p> <p>したがって、当院では、有害事象の発生頻度を減少させる努力を行うと同時に、まずはこれらのリスクに向き合い、有害事象が発生した場合の医学的な対応力を向上させる努力を行う。医療事故発生時には当院の技術を集結して治療に当たり、部門横断的に状況の改善に最善を尽くす。患者及び家族には遅滞なく事実を伝え、責任を持って治療・原因究明・再発防止に取り組むことを説明する。</p> <p>有害事象の発生が不可避である以上、それぞれの診療行為の過程において、どのように事故予防のための努力が払われているかも重要な指標となる。近年の学際的研究により、医療事故防止の発生には医学的事由や医療者個人の技量のみならず、様々な背景因子が複合的に関与することが明らかとなっており、その予防のためには事故原因の分析と医療行程の標準化が有用と考えられるようになった。</p> <p>当院では、病院全体でこれらの課題に取り組み、第三者による客観的評価を受けながら、組織的な事故防止対策や、職員への教育・指導を継続していく。</p>																	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回開催している。</p> <p>(1) 医療の安全管理のための基本指針の策定に関すること。</p> <p>(2) 重大な問題その他推進委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>(3) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。</p> <p>(4) 前号の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しに関すること。</p> <p>(5) 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。</p> <p>(6) 前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。</p> <p>(7) 医療安全推進のための職員研修等に関すること。</p> <p>(8) 職員総参加の医療安全推進に関すること。</p> <p>(9) その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること。</p>																	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回																
<p>・ 研修の内容（すべて）：令和6年度開催実績</p> <table border="1" data-bbox="164 1738 1417 1957"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>開催期間</th> <th>テーマ</th> <th>受講人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>R6. 5. 7～R7. 2. 28</td> <td>①中心静脈カテーテル抜去時のトラブル ②アラームへの不適切な対応</td> <td>2068</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>R6. 5. 7～R7. 2. 28</td> <td>医療安全の基本を知る③ノンテクニカルスキル</td> <td>2068</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>R6. 10. 31 R7. 1. 24～R7. 3. 31</td> <td>「モニタのアラームと安全管理」</td> <td>414</td> </tr> </tbody> </table>		No.	開催期間	テーマ	受講人数	1	R6. 5. 7～R7. 2. 28	①中心静脈カテーテル抜去時のトラブル ②アラームへの不適切な対応	2068	2	R6. 5. 7～R7. 2. 28	医療安全の基本を知る③ノンテクニカルスキル	2068	3	R6. 10. 31 R7. 1. 24～R7. 3. 31	「モニタのアラームと安全管理」	414
No.	開催期間	テーマ	受講人数														
1	R6. 5. 7～R7. 2. 28	①中心静脈カテーテル抜去時のトラブル ②アラームへの不適切な対応	2068														
2	R6. 5. 7～R7. 2. 28	医療安全の基本を知る③ノンテクニカルスキル	2068														
3	R6. 10. 31 R7. 1. 24～R7. 3. 31	「モニタのアラームと安全管理」	414														

4	R7.3.26	「医療安全と医療倫理 ～その接点を考える～」	98
---	---------	------------------------	----

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (  有  無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。

特に、アクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、重大事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2 院内感染対策のための組織に関する基本事項</li> <li>3 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li> <li>4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7 その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症の予防に関すること</li> <li>2 感染症予防対策の部門間調整に関すること</li> <li>3 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること</li> <li>4 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年11回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>第1回（E-ラーニング）： 「こんなときどうする？確定前から始める感染対策シミュレーション①「結核編」」（受講者数2056名）</p> <p>第2回（5/24）：「麻疹・風疹について」（受講者：228名）          第3回（6/12）：①「耐性菌対策」②「検体採取について」（受講者：259名）          第4回（7/25～7/31）：「動画研修「手指衛生」」（受講者：1499名）          第5回（10/16）：「発熱」（受講者：81名）          第6回（11/29）：「手洗い講習会」（受講者：369名）          第7回（12/17）：「HIV」（受講者：50名）※日本専門医機構共通講習会申請</p> <p>特別開催（8/8）：「手指衛生」（受講者：12名）</p> <p>臨時開催（1/7、1/15、1/17、その他随時）：動画研修「手指衛生」（受講者：92名）</p> <p>非常勤医師用（E-ラーニング）： 「抗菌薬の適正使用とは～AMRに立ち向かうために②～（動画講義）」（受講者：100名）</p> <p>申込制（随時）：「手洗い講習会」（受講者：85名）</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>ICTが院内ラウンドを実施し、院内各部署の感染管理状況の把握と現場への個別指導を行い、感染対策マネジャーは、ICTと協力して部署内の感染対策に当たる。 また、細菌検査室からの細菌分離情報は、感染制御部に報告され、検討の上、感染予防対</p>	

策委員会に報告するとともに病院内各部署に周知する。

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1 サーベイランスの実施（針刺し切創等血液曝露、耐性菌、医療器具関連感染、手術部位感染、手指衛生）
- 2 感染対策マニュアルの整備
- 3 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認
- 4 薬剤耐性菌感染症判定と治療確認、血流感染症および特定広域抗菌薬使用患者調査
- 5 ICTwebの活用
- 6 各部署への情報共有（各病棟の細菌検出状況レポート・無菌材料検出菌報告等）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：令和6年度医薬品安全管理研修（1）「麻薬取り扱いの要点」 令和6年度医薬品安全管理研修（2） 「知識不足によるインスリンの過量投与」 「アレルギー既往歴の確認不足」</li> <li>・ 研修期間：令和7年7月1日（月）～ 令和7年2月28日（金） E-ラーニングで実施</li> <li>・ 研修の参加人数：2055名</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成（有・無）</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：  業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては、当該部署と検討し、改善している。</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 適否決定部門、臨床倫理委員会で承認を得た薬剤は、薬剤部内で情報共有を行っている。上限量を越えて処方された入院患者リストのファイルをDI室で作成し、病棟薬剤師に対して情報提供を行っている。その他の適応外使用薬は、各病棟薬剤師から情報を収集し、薬剤部共有フォルダ内にデータを入力することで、情報共有を行っている。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品・医療機器等安全性情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかPMDAナビなどインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報については、DIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。</li> <li>2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては、随時情報提供を行う。</li> <li>3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。</li> <li>4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る。</li> </ol> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 368 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>・ 新規採用時・異動時 304回 新規採用または異動者に対して所属に整備している医療機器の研修を実施</li> <li>・ 新規備品購入時 30回 備品整備委員会にて承認された機器を整備する際、基本操作及びトラブル対応の研修を実施</li> <li>・ 定期研修 32回 E-ラーニング2回 実際の部署において実機を用いた操作方法及びトラブルシューティングを研修し、基本的原理などはE-ラーニングを活用して研修を実施(CRRT、PCPS、保育器、人工呼吸器、除細動器、ベッドサイドモニタ、医用ポンプ)</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>メーカー定期点検：人工呼吸器、麻酔器、補助循環装置、血液浄化装置、内視鏡装置、放射線検査装置関連</p> <p>臨床工学センター定期点検：患者漏れ電流等電気的安全点検、操作点検 除細動装置、医用ポンプ、保育器、補助循環装置、血液浄化装置、内視鏡装置 ※人工呼吸器、麻酔器補助循環装置、血液浄化装置、内視鏡装置はメーカー及び臨床工学センター双方で実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</li> </ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器インシデントやアクシデント等発生した際、サイボウズにて図解にて臨床工学センターより報告閲覧が可能 メーカーからの報告書を医療管理システムに保管し、電子カルテ端末より閲覧が可能</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全推進委員長を担っている副病院長が医療安全管理責任者となり、統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (7名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品に関する情報は、医薬品情報・安全部門担当者に整理、周知及び周知の確認を行わせている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用状況や使用に係る情報については、医薬品情報・安全部門担当者に電子カルテや病棟薬剤師より収集させ、必要に応じて報告させている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p> <p>(所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無 )</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：部門リスクマネージャー及び診療情報管理士による診療録監査において、IC説明時にテンプレートを用いているか、テンプレートに沿った記載がされているかなどについて確認を行っており、不適切な事例があった場合は診療録等の管理に関する責任者(説明に関する責任者)から周知・指導を行っている。</p>	

また、規程（インフォームド・コンセントに関するガイドラインに関するガイドライン等）の周知を行うとともに、所定の書式の使用徹底及びテンプレートに沿った記載について指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>記載内容の確認：院内診療録記載マニュアルその他法令等に準じて、診療情報管理委員会が作成した点検シートを用いて、入院患者のカルテ（無作為抽出）を突合・目視で確認している。院内の診療情報管理士が一次点検を行い、多職種で構成されるRM（リスクマネージャー）が二次点検を実施する。診療情報管理委員会及び診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）に報告後、科長会にて報告を行い、各点検項目の講評について診療録等の管理に関する責任者（説明に関する責任者）から全診療科へ周知している。</p> <p>主な指導内容：点検項目となっている初診時記録（主訴、現病歴、既往歴）の記載漏れについて、診療録等の管理に関する責任者から対象となる医師の所属する科に指導を行っている</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（7）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 安全推進委員会及び調査委員会に係る事務に関すること。</p> <p>(2) 重大事故その他の推進部において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導に関すること。</p> <p>(3) 医療の安全管理に係る連絡調整に関すること。</p> <p>(4) 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。</p> <p>(5) 医療に係る安全の確保に資する診療内容のモニタリングを平時から行い、診療の状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。</p> <p>(6) 医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導に関すること。</p> <p>(7) インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価に関すること。</p> <p>(8) その他医療の安全推進に必要な業務に関すること。</p>	
<p>① 「放射線レポート見落とし対策」</p> <p>目的外臓器異常所見連絡件数</p>	放射線画像診断医からの連絡件数を調査

② 入院患者の転倒・転落発生件数 および発生率	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
③ 術前中止薬中止忘れ件数	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
④ 院内緊急コール件数	緊急コール報告書（ドクターホワイトコール・METコール報告）で毎月調査
⑤ 患者誤認・部位誤認件数	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑥ 誤薬発生件数	インシデント・アクシデントレポートから毎月調査
⑦ 死亡報告件数	死亡分類別死亡件数を毎月調査
⑧ 抗がん剤、壊死・炎症リスクのある薬剤の血管外漏出発生件数	インシデント・アクシデント・オカシスレポートから毎月調査

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - ・ 評価委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
  - ・ 承認後の実施状況の確認を行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（31件）、及び許可件数（30件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
  - ・評価小委員会へ意見照会を行う。（臨床倫理委員会委員長が意見照会を受けて、開催毎に未承認医薬品等評価小委員会の委員長（議長）を選任する）
  - ・評価小委員会からの意見に基づき、申請に対する最終の適否を決定し、申請診療科へ通知を行う。
  - ・承認後の実施状況の確認を行う。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年464件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年28件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

(5) 入院患者が死亡した場合及び入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生した場合における医療安全推進部への報告の実施状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。

(6) 前号に規定する実施状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：徳島大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：鳥取大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

<医療安全>

医療事故調査に該当しない事例について、外部委員を招聘して重大事故調査委員会が開催されていることは評価できる。開催頻度が年間1例程度であるのは、外部委員を招聘するための手続きが煩雑で

開催のハードルが高くなっているのではないかと。外部委員の招聘にこだわらず、院内職員だけでもよいので事例検討会の実施を検討してはどうか。

→ 医療安全推進委員会（以下、委員会）で、重大事故調査委員会の開催が必要と判断された事例は、外部委員を招聘して事故調査委員会を開催することにした。その他で、病院内部での事例検討は、これまで通り、アクシデント（レベル 3b 以上）事例は全例、委員会に報告し、委員会の中で検討・協議している。また、関係部署を集めたカンファレンスは、医療安全推進部が調整したうえで開催するようにしている。

#### <医薬品等>

PMDA への副作用報告が年間 1 件程度という点について少ないと感じるため、積極的な報告をお願いできればと思う。

→令和 6 年度の PMDA への副作用報告は 5 件あり、今年度もすでに報告提出されており、継続的な呼びかけにより報告体制が浸透している。

#### <高難度>

令和 5 年度の申請件数が 3 件と少ないと感じました。また、外保連試案における技術難易度 D に区分される術の実施及び実施体制の変更等により、本来は部門において審査が必要な事項について、実施部署以外がチェックする体制が無いと感じた。一部の診療科で、高難度技術に該当するかどうかのルールを定めているようなので、病院の取り組みとして広げていただきたい。

高難度技術を実施する体制を患者へ説明する必要があるため、説明文書に、術者の専門医資格等を記載する様式を検討されてはどうか。

規則において、「患者が死亡した場合その他必要とされる場合には、速やかに部門に報告するものとする。」とされていますが、「●時間以内」など、時間を定めて迅速な報告が行われるように規則を見直すなど検討されてはどうか。

→①高難度技術の該当性について実施部署以外がチェックする体制の構築について

現状は上記対応のとおりであり、体制構築には至っていない。

②術者の専門医資格等の説明文書への記載について

③患者死亡時等の報告期限にかかる規則見直しについて

現状は上記対応のとおりであり、規則やマニュアルの改正には至っていない。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

##### ・体制の確保状況

患者相談窓口において、安全管理に係る相談のほか、医事相談や苦情、要望、臨床研究、治験な

ど、患者及びその家族からの様々な相談等をワンストップで受け付け、医事課及び関係部署と連携して対応する体制となっている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- ・令和6年度開催実績

No.	開催期間	テーマ	受講人数
1	R6. 5. 7～R7. 2. 28	①中心静脈カテーテル抜去時のトラブル ②アラームへの不適切な対応	2068
2	R6. 5. 7～R7. 2. 28	医療安全の基本を知る③ノンテクニカルスキル	2068
3	R6. 10. 31 R7. 1. 24～R7. 3. 31	「モニタのアラームと安全管理」	414
4	R7. 3. 26	「医療安全と医療倫理 ～その接点を考える～」	98

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

日本医療機能評価機構 特定機能病院管理者研修

- ・管理者：2024年12月受講
- ・医療安全管理責任者：2025年1月受講
- ・医薬品安全管理責任者：2024年11月受講
- ・医療機器安全管理責任者：2024年11月受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・第三者による評価の受審状況

病院機能評価 一般病院3 (3rdG: Ver. 2.0) 認定更新審査を2022年11月に受審。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにおいて公表（令和7年5月9日公表）

<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital/info/kinohyoka.html>

・評価を踏まえ講じた措置

- (1) 診療情報管理委員会において、重複したカルテ記載とならないようにルールを定めて、略語集を適時更新を実施するなど継続的に対応していく。
- (2) 直近5年間に一度もBLS訓練を受けていない全ての職員（本年度既に予定されている訓練の受講者を除く）全員を対象に、年度内に訓練を実施していく。
- (3) 全職員を対象としている研修（接遇研修など）の受講率を100%とするため、期限を設けて受講を促し、なお受講していない職員については、所属単位で実名を挙げて督促し、確実な実施を実現する。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<p>・ 基準の主な内容 下記のとおり基準を策定し、ホームページで公表している。</p> <p>病院長には、人格が高潔で、学識に優れ、次に掲げる資質・能力が求められる。</p> <p>①医療安全の確保のために必要な資質及び能力 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること。</p> <p>②組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力 当院又は当院以外での病院の組織管理経験など、特定機能病院の管理運営上必要な資質能力を有していること。</p> <p>③当院の理念等を実現するために必要な資質及び能力 当院の理念及び基本方針の実現を目指し、リーダーシップを発揮し病院運営を行う能力を有していること。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ）</p> <p>・ 公表の方法： ホームページで公表</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の運営に関する事項</li> <li>・ 診療に関する事項</li> <li>・ その他必要な事項</li> </ul> </li>   <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況              審議決定した事項のうち、特に必要な事項については、各所属長及び各診療科の病棟医長にメール配信するとともに、教育研究審議会、医学部教授会又は保健看護学部教授会にも報告している。</li>   <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</li> <li>・ 公表の方法</li>   <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
西村 好晴	○	医師	附属病院長
田中 篤		医師	附属病院副院長
保富 宗城		医師	附属病院副院長
芝瀧 ひろみ		看護師	附属病院副院長
岡田 由香		医師	附属病院副院長
松岡 孝昭		医師	診療科長
北野 雅之		医師	診療科長
山本 信之		医師	診療科長
荒木 信一		医師	診療科長
園木 孝志		医師	診療科長
宮本 勝一		医師	診療科長
藤井 隆夫		医師	診療科長
徳原 大介		医師	診療科長
紀本 創兵		医師	診療科長
川井 学		医師	診療科長
中尾 直之		医師	診療科長
山田 宏		医師	診療科長

朝村 真一		医師	診療科長
柑本 康夫		医師	診療科長
井籠 一彦		医師	診療科長
雑賀 司珠也		医師	診療科長
神人 正寿		医師	診療科長
松村 達志		歯科医師	診療科長
井上 茂亮		医師	診療科長
川股 知之		医師	診療科長
村田 晋一		医師	診療科長
中川 貴之		薬剤師	薬剤部長
神藤 洋次		臨床検査技師	中央検査部技師長
熊山 義孝		診療放射線技師	中央放射線部技師長
小池 有美		理学療法士	リハビリテーション部療法士長
望月 龍馬		管理栄養士	病態栄養治療部栄養士長
田村 彰		医師	医療安全推進部長
小泉 祐介		医師	感染制御部長
西川 彰則		医師	医療情報部長
中村 一貴		臨床工学技士	臨床工学センター工学技士長
南 佐和子		医師	遺伝診療部長
村田 顕也		医師	教育研究開発センター長
蒸野 寿紀		医師	地域医療支援センター長
貴志 幸生		事務職	事務局長
末松 新一		事務職	事務局次長(病院担当)
島 泰弘		事務職	危機対策室長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容

#### 附属病院長の職務として下記の事項を規定

- ・ 病院長は上司の命を受け、当該病院に属する院務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

#### 附属病院長の職務分担として下記の事項を規定

- ・ 附属病院の将来計画に関する事
  - ・ 附属病院の予算編成・執行に関する事
  - ・ 附属病院施設及び医療備品の整備に関する事
  - ・ 附属病院の経営に関する事
  - ・ 医療安全に関する事
  - ・ 地域医療との連携及び支援に関する事
  - ・ 医療に係る情報公開・広報に関する事
  - ・ その他医療活動全般に関する事
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長が、上司の命を受け、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、当該職務を代理している。院内担当、渉外担当及び紀北分院担当の副院長を置くとともに、看護部長も副院長を兼任している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

副院長及び院内の各部門の長等については、管理者である病院長が指名している。

病院のマネジメントに特化した研修は実施していないが、病院長と副院長等による会議を週に1回程度開催し、病院のマネジメントについて協議を行っており、その協議結果に基づき、各部門において病院運営を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について管理者等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>(2) 必要に応じ、当該病院の開設者又は管理者に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>(3) (1) 及び (2) に掲げる業務について、その結果を公表すること</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有・無)</p> <p>・ 公表の方法：ホームページによる公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
新田 雅彦	大阪医科薬科大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
中川 利彦	パークアベニュー法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・無	1
浦野 敏	NPO法人いきいき和歌山がんサポート		医療を受ける者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事を置き、法人の業務等について監査させている。

監事は、理事等が不正な行為をしたり、そのおそれがあると認めるとき、又は法令及び定款に違反する事実や著しく不当な事実があると認めるときは、理事会に報告することとなっている。この報告を受け、理事等は、是正又は改善すべき事項を認めるときは、必要な措置を講じ、その結果を監事に報告することとなっている。

また、監事は法人の内部監査部門等と連携し、法人の適正な業務運営を確保するために必要な体制の整備状況や内部監査部門が実施した監査結果についての報告を求めることができる。

- ・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 有 ・  無 )
- ・ 公表の方法

本学のホームページに会計監査人及び監事監査人の監査報告書を掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属病院を含めた法人の中期計画、予算・決算に関すること</li> <li>・ 診療備品の整備方針等に関すること</li> <li>・ 病院職員の採用方針に関すること</li> </ul>                             上記の案件について、理事会において審議を行っている。                         </li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法                              学内ホームページにて公表                         </li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法 : 学内ホームページに掲載</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページ</p> <p>病院広報誌「まんだらげ」</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>がんセンターボード (肝がん、甲状腺がん、肺がん、消化器がん、骨腫瘍、乳がん、頭頸部がん、すい臓がん) など</p>	